
2006 年度

日本精神科看護技術協会
会員基礎調査
報告書

社団法人 日本精神科看護技術協会

はじめに

社団法人日本精神科看護技術協会としての会員基礎調査は、2002年度にはじめて行われました。本調査は会員個人の属性に加え、協会の事業内容を中心として、ホームページ・日精看ニュースの活用状況、学会や研修会のあり方、そして精神科認定看護師制度のありかたなどを調査項目としています。これらは「会員が今どのようなニーズを持ち、何を協会に期待しているのか」、そして「会員が望む将来の協会のあるべき姿は何か」を問うものであり、協会事業を検討・運営していくうえで大きな示唆を与えるものであると考えます。

そこで本調査は、2年毎に継続して実施することにしてあります。2004年度調査を経て、2006年度が3回目の実施となりますが、今回より単年度の調査結果に加え、過去の結果も含めた推移を示すことが可能になりました。単年度では見えなかった動向が把握できるようになったことは、今回の調査の特徴ともいえます。

当協会は、職能団体として現状の課題を的確に把握しつつ、これからの時代に即した質の高い精神科看護を提供しなければならないと考えています。そこで、会員基礎調査の結果は、そのための貴重な資料として今後さらに活用し、協会の発展に生かしていく所存であります。

お忙しいなか、調査に協力していただいた会員の皆様には、書面を借りて深く感謝の意を表します。

社団法人 日本精神科看護技術協会
情報センター 吉川隆博

2006 年度

日本精神科看護技術協会会員基礎調査

報 告 書

目 次

	頁
はじめに	1
目 次	2
調査設計	4
母集団の内訳	6
まとめと考察	11
本 編	19
§ 1. 会員自身について	21
1) 最終学歴	21
2) 所有している免許	22
3) 看護師学校養成所2年課程への進学希望	23
4) 勤務状況	26
5) 転職経験	30
§ 2. 勤務先について	34
1) 勤務先の状況	34
2) 勤務形態	35
3) 勤務先への満足度	39
§ 3. 会員について	45
1) 会員期間	45
2) 会員を辞めた経験	46
3) 会員になった動機	47
4) 会費の負担状況	48

5) 日精看以外の所属団体	50
§ 4. 協会について	52
1) 『日精看ニュース』の閲読状況	52
2) 学会と研修会	54
3) 協会ホームページ	62
4) 認定制度の認知状況	66
§ 5. 精神科看護に対する考えについて	68
調査票	73

2006 年度

日本精神科看護技術協会会員基礎調査

調 査 設 計

I 調査の目的

会員の勤務形態や精神科看護に対する考え、並びに協会に対する意見・要望等について調査することにより、今後の協会の事業や活動の企画・運営に役立てるとともに、精神科看護の更なる発展に資する。

II 調査の対象

会員総数 41,812 名のうち、4,010 名を無作為抽出して調査を行なった。有効回答数は 2,036 件で、回収率は 50.8%であった。

III 調査の方法

調査対象として抽出した上記会員宛に調査票を郵送した。

IV 調査の内容

1) 会員自身について

- ①性別と年齢
- ②配偶者と子供の有無
- ③最終学歴
- ④所有している免許の種類
- ⑤勤務経験施設
- ⑥勤務期間
- ⑦採用形態と職位
- ⑧転職経験

2) 勤務先について

- ①勤務先
- ②勤務している診療科
- ③勤務先の設置主体

- ④勤務先の週休形態
- ⑤現在の勤務先を選んだ理由
- ⑥勤務先で満足している項目、不満に感じている項目
- 3) 会員について
 - ①会員期間
 - ②会員を辞めた経験
 - ③会員になった動機
 - ④会費の負担方法
 - ⑤日精看以外の所属団体
- 4) 協会について
 - ①日精看ニュースの閲読状況
 - ②協会ホームページの閲覧状況
 - ③学会，研修会への参加経験
- 5) 精神科看護に対する考え

V 調査の期間

2006年9月～2007年3月

VI 調査の主体

社団法人 日本精神科看護技術協会

母集団の内訳

■性 別

	合 計	男 性	女 性	無回答
2006 年度	2,036	530	1,492	14
	100.0%	26.0%	73.3%	0.7%
2004 年度	1,956	529	1,415	12
	100.0%	27.0%	72.3%	0.6%
2002 年度	2,007	491	1,510	6
	100.0%	24.5%	75.2%	0.3%

■年 齢

	合 計	30 歳未満	30～40 歳 未 満	40～50 歳 未 満	50～60 歳 未 満	60 歳以上	無回答
2006 年度	2,036	244	457	570	632	98	35
	100.0%	12.0%	22.4%	28.0%	31.0%	4.8%	1.7%
2004 年度	1,956	266	384	624	565	87	30
	100.0%	13.6%	19.6%	31.9%	28.9%	4.4%	1.5%
2002 年度	2,007	294	426	654	507	98	28
	100.0%	14.6%	21.2%	32.6%	25.3%	4.9%	1.4%

※2006 年度：平均 44.1 歳 ※2004 年度：平均 43.7 歳 ※2002 年度：平均 42.9 歳

■配偶者と子供の有無

	合 計	配 偶 者			子 供		
		有	無	無回答	有	無	無回答
2006 年度	2,036	1,395	621	20	1,485	496	55
	100.0%	68.5%	30.5%	1.0%	72.9%	24.4%	2.7%
2004 年度	1,956	1,352	586	18	1,424	478	54
	100.0%	69.1%	30.0%	0.9%	72.8%	24.4%	2.8%
2002 年度	2,007	1,414	581	12	1468	482	57
	100.0%	70.5%	28.9%	0.6%	73.1%	24.0%	2.8%

■最終学歴
2006 年度

合 計	准看護師養成所・高校衛生看護学科	看護高校専攻科	看護師養成所 2年・短大 2年課程	看護師養成所 3年課程	短期大学 3年課程
2,036	505	81	443	811	62
100.0%	24.8%	4.0%	21.8%	39.8%	3.0%
	保健師・助産婦専門学校	看護系大学	大学院	その他	無回答
	22	25	10	47	30
	1.1%	1.2%	0.5%	2.3%	1.5%

2004 年度

合 計	准看護師養成所・高校衛生看護学科	看護高校専攻科	看護師養成所 2年・短大 2年課程	看護師養成所 3年課程	短期大学 3年課程
1,956	485	80	465	789	39
100.0%	24.8%	4.1%	23.8%	40.3%	2.0%
	保健師・助産婦専門学校	看護系大学	大学院	その他	無回答
	25	20	14	15	24
	1.3%	1.0%	0.7%	0.8%	1.2%

2002 年度

合 計	准看護養成	2年課程	3年課程	大学など	その他	無回答
2,007	599	464	828	56	46	14
100.0%	29.8%	23.1%	41.3%	2.8%	2.3%	0.7%

■所有免許の種類（複数回答）

	合計	看護師	准看護師	保健師	助産師	介護支援専門員	精神保健福祉士	無回答
2006 年度	2,036	1,510	891	42	9	134	34	11
	100.0%	74.2%	43.8%	2.1%	0.4%	6.6%	1.7%	0.5%
2004 年度	1,956	1,446	887	42	11	140	29	8
	100.0%	73.9%	45.3%	2.1%	0.6%	7.2%	1.5%	0.4%
2002 年度	2,007	1,470	811	40	18	128	20	3
	100.0%	73.2%	40.4%	2.0%	0.9%	6.4%	1.0%	0.1%

■働いている免許の種類

	合計	看護師	准 看護師	保健師	助産師	介護 支援 専門員	精神 保健 福祉士	無回答
2006 年度	2,036	1,495	513	4	0	4	4	16
	100.0%	73.4	25.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.8
2004 年度	1,956	1,435	500	3	1	2	2	13
	100.0%	73.4%	25.6%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.7%

■主たる勤務先

2006 年度

合計	総合病院	精神病院	診療所	訪問看護 ステーション	社会復帰施設
2,036	180	1747	9	14	13
100.0%	8.8	85.8	0.4	0.7	0.6
	都道府県・ 市町村	企業	教育・ 研究機関	その他	無回答
	9	1	22	27	14
	0.4	0.0	1.1	1.3	0.7

2004 年度

合計	総合病院	精神病院	診療所	訪問看護 ステーション	社会復帰施設
1,956	184	1,670	9	12	16
100.0%	9.4%	85.4%	0.5%	0.6%	0.8%
	都道府県・ 市町村	企業	教育・ 研究機関	その他	無回答
	10	1	33	8	13
	0.5%	0.1%	1.7%	0.4%	0.7%

■勤務している診療科

	合計	精神科	神経科	神経 内科	心療 内科	内科	外科	その他	無回答
2006 年度	1,927	1,737	14	5	1	19	4	42	105
	100.0%	90.1%	0.7%	0.3%	0.1%	1.0%	0.2%	2.2%	5.4%
2004 年度	1,956	1,697	19	4	2	24	2	17	89
	100.0%	91.5%	1.0%	0.2%	0.1%	1.3%	0.1%	0.9%	4.8%

■勤務先の設置主体

2006 年度

合 計	国	公的機関	独立行政 法人	社会保険 関係団体	公益法人	医療法人
2,036	15	271	105	21	337	1,163
100.0%	0.7%	13.3%	5.2%	1.0%	16.6%	57.1%
	学校法人	会 社	その他の 法人	個 人	無回答	
	24	0	14	58	28	
	1.2%	0.0%	0.7%	2.8%	1.4%	

2004 年度

合 計	国	公的機関	社会保険 関係団体	公益法人	医療法人
1,956	45	286	20	312	1,164
100.0%	2.3%	14.6%	1.0%	16.0%	59.5%
	学校法人	会 社	その他の法人	個 人	無回答
	30	0	27	44	28
	1.5%	0%	1.4%	2.2%	1.4%

2002 年度

合 計	国・公的 機関	民 間	無回答
2,007	425	1,565	17
100.0%	21.2%	78.0%	0.8%

■勤務先の所在地

2006 年度

N=2,036

都道府県名		数	比 率	都道府県名		数	比 率
北海道・東北	北海道	85	4.2%	中国・四国	京都府	24	1.2%
	青森県	17	0.8%		大阪府	93	4.6%
	岩手県	42	2.1%		兵庫県	66	3.2%
	秋田県	39	1.9%		奈良県	10	0.5%
	山形県	52	2.6%		和歌山県	22	1.1%
	宮城県	21	1.0%		福井県	29	1.4%
	福島県	41	2.0%		鳥取県	26	1.3%
関東・甲信越	茨城県	35	1.7%	島根県	36	1.8%	
	栃木県	44	2.2%	岡山県	64	3.1%	
	群馬県	65	3.2%	広島県	100	4.9%	
	埼玉県	38	1.9%	山口県	59	2.8%	
	千葉県	73	3.6%	徳島県	36	1.8%	
	東京都	55	2.8%	香川県	26	1.3%	
	神奈川県	73	3.6%	愛媛県	58	2.8%	
	新潟県	66	3.2%	高知県	18	0.9%	
	長野県	29	1.4%	福岡県	39	1.9%	
	山梨県	31	1.5%	佐賀県	49	2.4%	
東海・北陸・近畿	富山県	23	1.1%	九州・沖縄	長崎県	25	1.2%
	石川県	36	1.8%		熊本県	72	3.5%
	岐阜県	59	2.9%		大分県	25	1.1%
	静岡県	24	1.2%		宮崎県	16	0.8%
	愛知県	57	2.8%		鹿児島県	22	1.1%
	三重県	34	1.7%		沖縄県	57	2.8%
	滋賀県	13	0.6%		無回答	12	0.6%

まとめと考察

会員基礎調査も今回で3回目を迎えた。2004年度の調査と同様に全会員の約1割に相当する4,010名の会員に対してアンケートを送付し、2,036名(回収率50.8%)の会員から回答を得た。いくつかの項目では、2002年度または2004年度の調査結果と比較することが可能になり、会員の状況や意識の変化について分析した。

※ () 内は、特別な記載がない場合を除いて2002年度会員実態調査の数値。

1. 会員自身について

最終学歴についてみると、「看護師養成所3年課程」の割合が39.8%(41.3%)※で最も高く、これに「准看護師養成所・高校衛生看護学科」が24.8%(29.8%)、「看護師養成所2年課程・短期大学2年課程」が21.8%(23.1%)・・・と続いている。

2002年度の調査と比較すると、「准看護師養成所・高校衛生看護学科」の低下率が大きい。

また、どの免許で働いているかについて調査した結果をみると、「看護師」の割合が73.4%(72.7%)を占めている。

一方、准看護師の割合は25.2%(26.3%)である。その准看護師の会員に対して、看護師学校養成所2年課程(通信制)への進学希望の状況について調査したところ、「希望する」との回答は34.5%(2004年度調査では36.8%)である。

また、進学希望者における今後の進学予定の状況についてみると、「進学中」が10.2%で1割を超え、「進学予定」が18.6%(2004年度調査では17.4%)であり、進学希望者のほぼ3割が進学または進学を予定している。

職位の状況をみると、「管理職」の割合は23.0%(23.3%)である。これを年齢別にみると、同割合は、年齢層が高くなるほど高まる傾向がみられる。特に40歳代を境に同割合が急増し、“60歳以上”では40.8%を占めている。

これを最終学歴の違いで分析すると、「准看護師養成所・高校衛生看護学科」卒者の職位の状況は、「管理職」の割合が“60歳以上”でも12.5%(2004年度調査では12.9%)にとどまっているのに対して、「看護師養成所3年課程」卒者では、「管理職」の割合が年齢層の高まりとともに大きく増加し、“60歳以上”では60.5%(2004年度調査では55.9%)を占めている。

最終学歴の違いで“60歳以上”における「管理職」の割合に50ポイント近い差があり、最終学歴が職位の状況に大きく影響していると推察される。

転職経験についてみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は58.4%(56.9%)を占めており、2002年度の調査時に比べて転職経験者の割合がわずかながら高くなっている。女性が多い職種であることが、転職経験者の多さにつながってい

るとも考えられるが、男性に限ってみても半数以上の者が転職を経験しており、過去4年間で定着率の低さは改善されていない。

続いて、転職経験がある1,189名の会員に対して、転職した回数について調査したところ、会員1人当たりの平均転職回数は2.4回（2.4回）である。

これをカテゴリー別にみると、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が62.3%（64.6%）を占めており、転職経験者の大半が複数回の転職を経験しているといえる。

2. 勤務先について

主たる勤務先についてみると、「精神科病院」の割合が85.8%（2004年度の調査では85.4%）を占めており、病院勤務者のうち90.1%が「精神科」で勤務している（2004年度の調査では91.5%）。

勤務先の週休形態についてみると、「週休2日」と回答した会員の割合が68.4%（2004年度の調査では69.3%）である。週休2日制が浸透してきているが、この2年間では、ほとんど進んでいないとみられる。

これを設置主体別にみると、「週休2日」と回答した会員の割合は、“国”“公的機関”“独立行政法人”といった国公立系の施設がいずれも80%を超えているのに対して、“個人”では同割合が48.3%と低く、設置主体によって週休形態の状況に大きな差があるといえる。

また、勤務先の勤務体制についてみると、「三交代制」と回答した会員の割合が48.0%（2004年度の調査では50.3%）を占め、「二交代制」が42.5%（2004年度の調査では40.6%）となっており、2004年度の調査時に比べて、「三交代制」の割合がわずかながら低下しており、「二交代制」の割合がわずかながら高まっている。

現在の勤務先を選んだ理由（最も大きな理由）についてみると、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が25.4%（2004年度の調査では26.3%）で最も高く、これに「家族・知人の勧め」が16.1%、「勤務先の規模・安定性」が15.8%（2004年度の調査では21.5%）・・・と続いている。

通勤先で最も満足している項目についてみると、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が24.2%（2004年度の調査では22.6%）で最も高く、これに「人間関係」が14.2%（2004年度の調査では11.3%）、「労働時間・労働量・夜勤体制」が11.6%（2004年度の調査では12.2%）、「勤務先の規模・安定性」が9.8%（2004年度の調査では13.9%）・・・と続いている。

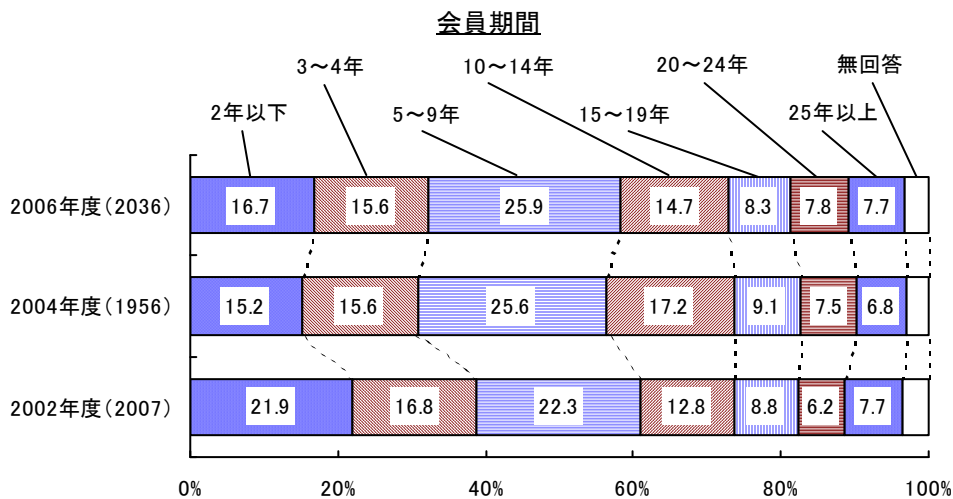
一方、通勤先で最も不満に感じている項目についてみると、「給与」を挙げた会員の割合が32.9%（2004年度の調査では30.8%）で最も高く、これに「業務内容」が

11.1%（2004年度の調査では11.2%）、「人間関係」が9.3%（2004年度の調査では9.4%）・・・と続いている。依然として「給与」に不満を感じている会員が多い他、「人間関係」も上位にきており、精神科看護師のメンタルケアを含めた労働環境の改善に向けた取り組みについての検討が必要と思われる。

3. 会員について

会員期間についてみると、会員1人当たりの平均期間は9.8年（9.2年）である。

これをカテゴリー別にみると、会員期間が5年未満の会員が32.3%（38.7%）、同5～20年未満の中堅会員が48.9%（43.9%）、同20年以上のベテラン会員が15.5%（13.9%）となっている。



2002年度の調査と比較すると、会員歴の浅い会員の割合が低下し、中堅会員やベテラン会員の割合が増加しており、会員歴の浅い会員の増加が課題といえる。

会員になった動機についてみると、「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が58.8%（55.2%）で最も高く、これに「勧められたから」が52.9%（43.4%）、「学会や研修会に参加するため」が43.4%（44.2%）・・・と続いている。

2002年度の調査と比較すると、「勧められたから」との動機を挙げた会員の割合が10ポイント程度増えているものの、「精神科の職能団体だから」「学会や研修会に参加するため」といった自主的な理由で会員になる方は、さほど増えていない。今後は、こういった自主的な理由で会員になる方を更に増やしていく取り組みが必要と思われる。

4. 協会について

『日精看ニュース』の閲読状況についてみると、「必ず読む」会員の割合が36.9% (37.4%)である。「時々読む」会員の割合である44.9% (48.1%)を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。

ただ、2002年度の調査と比較すると、閲読している会員の割合が4ポイント近く低下しており、この4年間で閲読率が向上していないと推察される。

続いて、日精看ニュースを閲読している1,952名の会員に対して、よく見る記事について調査したところ、「トップ記事」を挙げた会員が56.6% (2004年度の調査では53.1%)で半数以上を占め、これに「私の病院」が46.8% (2004年度の調査では44.4%)、「トップナース」が26.4% (2004年度の調査では21.2%)、「チーム医療」が23.0%、「ナースステーション」が22.0% (2004年度の調査では19.1%)、「事務局だより」が20.0% (2004年度の調査では16.7%)・・・と続いている。

また、協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は16.8% (11.2%)であり、2002年度の調査時に比べて、同割合が5ポイント以上増えている。

続いて、日精看のホームページを閲覧している757名の会員に対して、よく見るページについて調査したところ、「研修会の案内」を挙げた会員の割合が36.7% (2004年度の調査では37.9%)で最も高く、これに「文献検索」が15.7%、「支部のホームページ」が15.3% (2004年度の調査では18.1%)、「掲示板」が12.8%、「日本精神科看護学会」が11.9% (2004年度の調査では13.8%)、「認定看護師制度」が11.9%、「こころの健康」が10.7% (2004年度の調査では10.7%)・・・と続いている。

協会主催の全国学会への参加経験者の割合は、35.3% (2004年度の調査では39.1%)、同専門学会への参加経験者の割合は41.4% (2004年度の調査では44.6%)である。

一方、協会主催の研修会への参加経験者の割合は、51.7% (55.6%)であり、半数以上の会員において参加経験があるとみられる。ただ、2002年度の調査と比較すると、いずれも参加経験者の割合がわずかながら低下している。今回の調査を通じて、「研修の期間が長い」「すぐに定員が一杯になってしまう」「研修参加に対する職場の理解が得られない」等の意見が聞かれたとともに、特に地方居住者にとっては、期間や宿泊等の問題から中央での研修会に参加するのが難しい状況にあるとみられ、開催地、開催期間、テーマなどについて検討し、より多くの会員が研修会に参加できるような取り組みが必要と思われる。

一方、支部主催の研修会への参加経験者の割合は77.1% (76.9%)であり、大半の会員において参加経験があるとみられる。

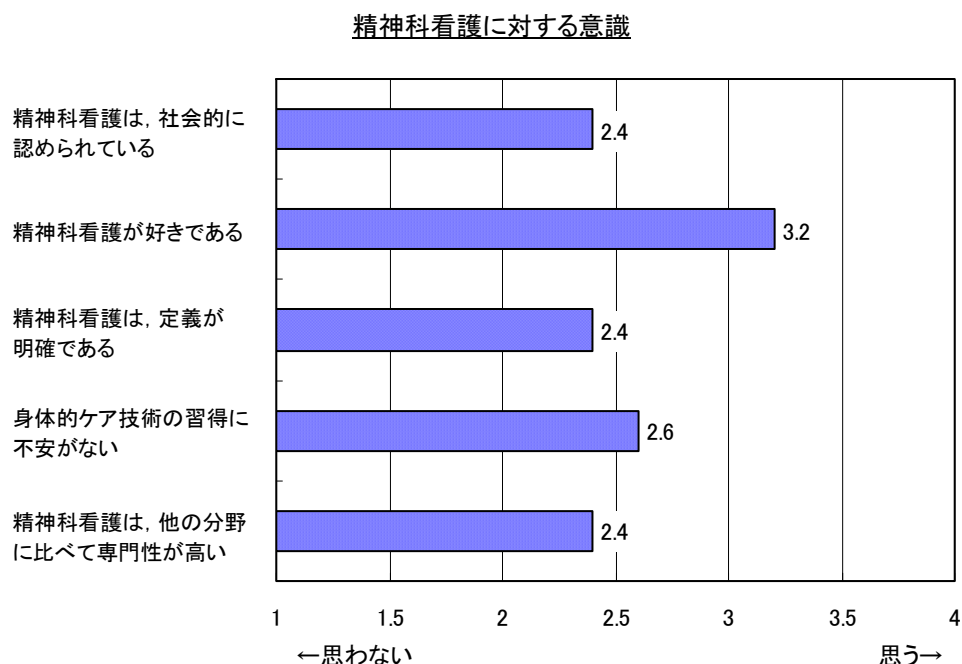
認定制度の認知状況について調査したところ、認知している（「目指している」+「知

「興味がある」+「知っているが興味はない」) 会員の割合は 92.0% (82.2%) を占めており、ほとんどの会員が認定制度を認知しているとみられる。

2002 年度の調査と比較すると、認知している会員の割合が 10 ポイント近く高くなっており、認定制度が着実に会員に浸透している状況が窺われる。

また、認定制度に興味を持っている会員も 39.5% (40.5%) を占めている。

5. 精神科看護について



精神科看護についての各種考えに対する意識について、「全く思わない」を 1 点、「あまり思わない」を 2 点、「まあ思う」を 3 点、「非常に思う」を 4 点として、平均スコアを算出したところ、「精神科看護が好きである」が 3.2 点で最も高く、これに「精神科看護では、身体的ケア技術の習得に不安がない」が 2.6 点で続いている。

また、「精神科看護は、社会的に認められていると思う」「精神科看護は、定義が明確である」「精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高い」は、いずれも 2.4 点である。

各考えについて、年齢別に分析したところ、全体的に高齢層ほど、精神科看護に肯定的かつ前向きな意識を持っている人の割合が高まる傾向がみられる。

引き続き若年層に対して精神科看護についての理解を促し、多くの若者に精神科看護に興味を持ってもらうとともに、精神科看護師のみならず、他の分野の看護師や一般世間の人々に対して、精神科看護についての理解を促すことで、精神科看護の社会的認知度を高めていく必要があるといえる。

本 編

§ 1. 会員自身について

1) 最終学歴

【表-1】 最終学歴の状況 (S A、%)

	高校衛生看護学科 准看護師養成所・ 看護高校専攻科	看護師養成所 短期大学2年課程	看護師養成所 短期大学2年課程・ 看護師養成所3年課程	看護師養成所 短期大学3年課程	保健師・助産師専門学校	看護系大学	大学院	その他	無回答	
総数 (2,036)	24.8	4.0	21.8	39.8	3.0	1.1	1.2	0.5	2.3	1.5
【年齢別】										
30歳未満 (266)	17.2	4.5	18.0	45.5	6.1	1.6	5.7	0.0	0.8	0.4
30～40歳未満 (384)	18.2	4.2	26.3	41.8	4.2	0.9	1.3	0.9	1.5	0.9
40～50歳未満 (624)	19.5	4.7	24.7	40.5	2.5	0.7	0.9	1.1	3.9	1.6
50～60歳未満 (565)	36.1	3.3	18.4	36.6	1.9	1.1	0.0	0.0	1.9	0.8
60歳以上 (87)	32.7	3.1	15.3	38.8	2.0	3.1	0.0	0.0	4.1	1.0

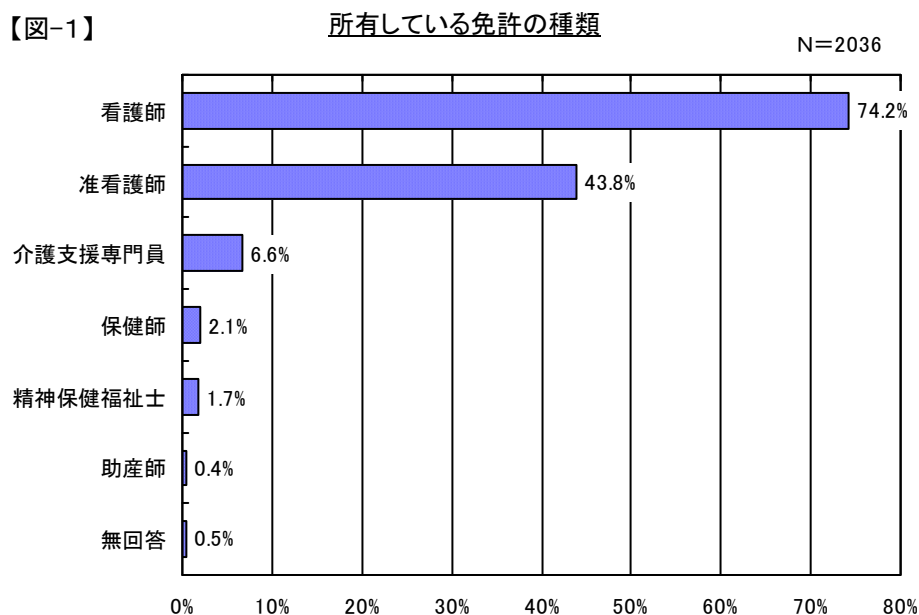
協会の会員 2,036 名に対して、最終学歴について調査したところ、「看護師養成所 3年課程」の割合が 39.8% (41.3%) *で最も高く、これに「准看護師養成所・高校衛生看護学科」が 24.8% (29.8%)、「看護師養成所 2年課程・短期大学 2年課程」が 21.8% (23.1%)・・・と続いている。

2002 年度の調査と比較すると、「看護師養成所 3年課程」「准看護師養成所・高校衛生看護学科」「看護師養成所 2年課程・短期大学 2年課程」の割合がいずれも低下しており、中でも「准看護師養成所・高校衛生看護学科」の低下率が最も大きい。

最終学歴の状況を年齢別にみると、いずれの年齢層でも「看護師養成所 3年課程」の割合が最も高くなっている。また、年齢層が高くなるほど「准看護師養成所・高校衛生看護学科」の割合が高まる傾向がみられ、“50～60歳未満”では 36.1%を占めており、「看護師養成所 3年課程」とほぼ同じ割合になっている。

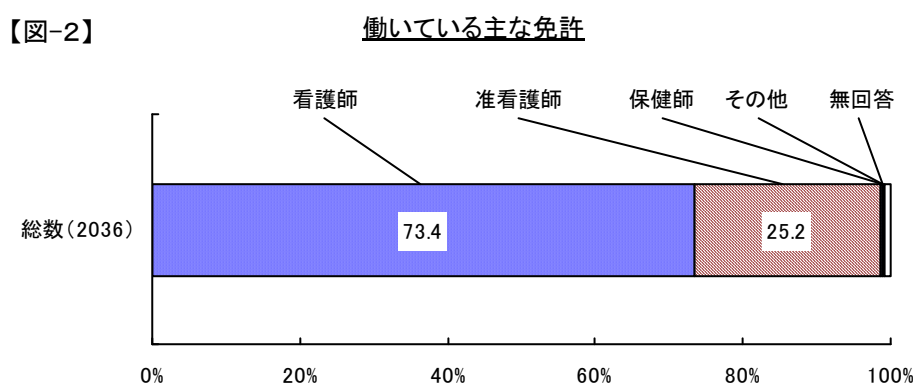
※ () 内は、特別な記載がない場合を除いて 2002 年度会員実態調査の数値。

2) 所有している免許



所有している免許の種類について調査したところ、「看護師」の割合が 74.2% (73.2%) で突出して高く、これに「准看護師」が 43.8% (40.4%) で続いている。2002 年度の調査と比較すると、「看護師」の割合がわずかながら高まり、「准看護師」の割合が低下している。

また、「介護支援専門員」の割合が 6.6% (6.4%) であり、「保健師」「精神保健福祉士」「助産師」は、いずれもわずかである。

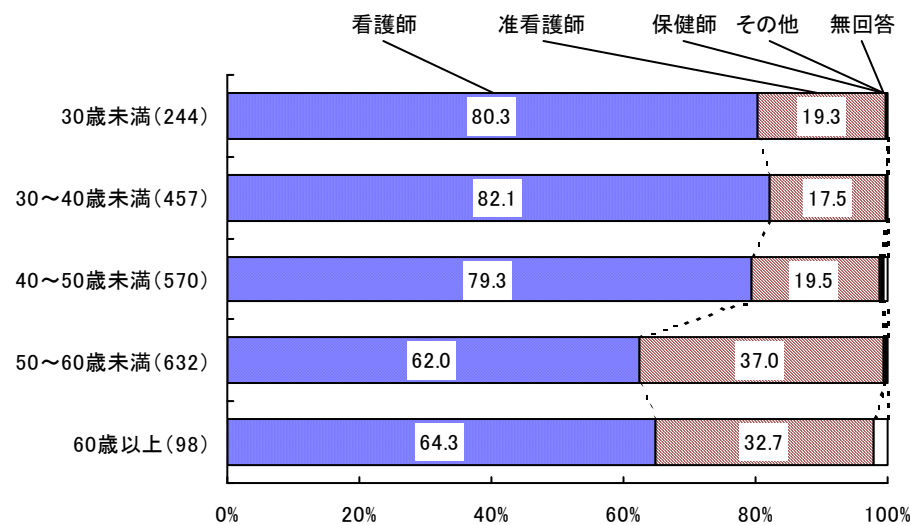


続いて、現在、主にどの免許で働いているかについて調査したところ、「看護師」の割合が 73.4% (72.7%) を占め、「准看護師」の割合は、25.2% (26.3%) である。

2002 年度の調査と比較すると、「看護師」「准看護師」の割合にほとんど差がみられ

ない。

【図-3】 働いている主な免許(年齢別)



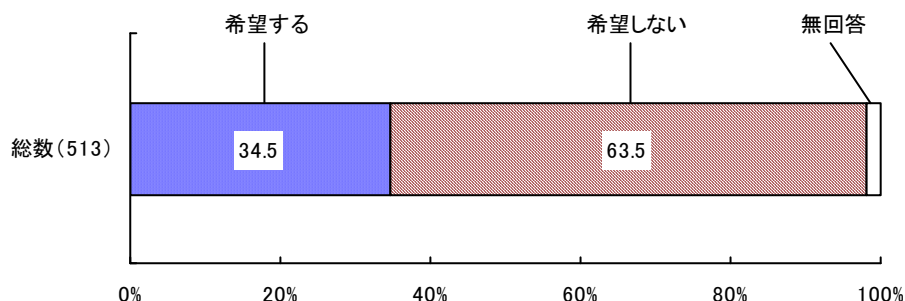
これを年齢別にみると、30歳未満から40歳代にかけて「看護師」の割合が高く、いずれも80%前後を占めている。

また、50歳代を境に「准看護師」の割合が高まり、“50～60歳未満”では37.0%を占めている。

3) 看護師学校養成所2年課程への進学希望

①進学希望の状況

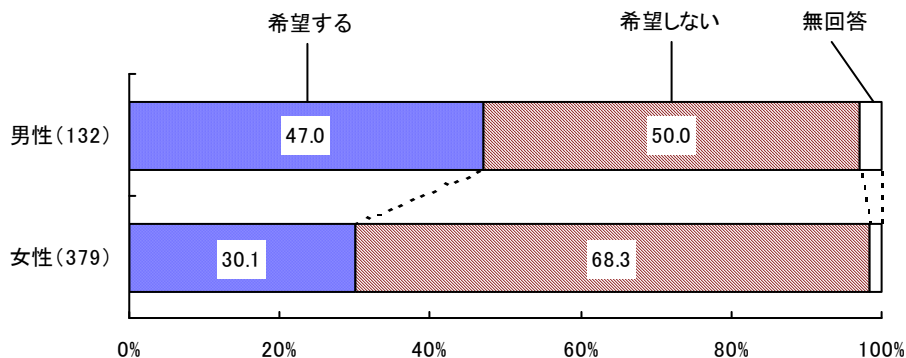
【図-4】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況



准看護師の資格で働いている513名の会員に対して、看護師学校養成所2年課程(通信制)への進学希望の状況について調査したところ、「希望する」との回答は34.5%

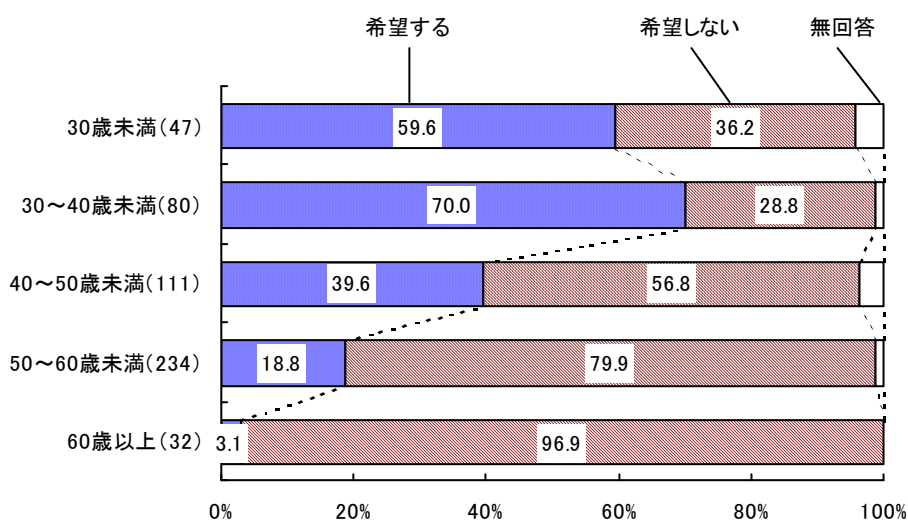
(2004 年度調査では 36.8%) である。

【図-5】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況(性別)



性別にみると、「希望する」と回答した会員の割合は、“女性”よりも“男性”の方が17ポイント程度高く、“男性”に限れば同割合が半数近くを占めている。

【図-6】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況(年齢別)

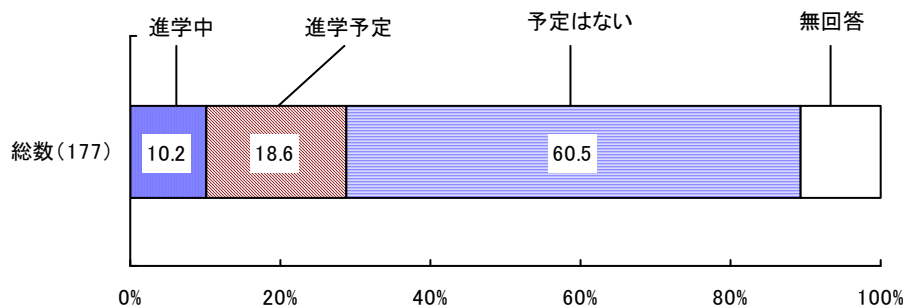


これを年齢別にみると、“30～40 歳未満”で「希望する」会員の割合が最も高く、70%を占めている。

また、30 歳代以降は、年齢が高くなるに伴って「希望する」会員の割合が低下する傾向がみられ、“50～60 歳未満”では 18.8%、“60 歳以上”では 3.1%にまで低下する。

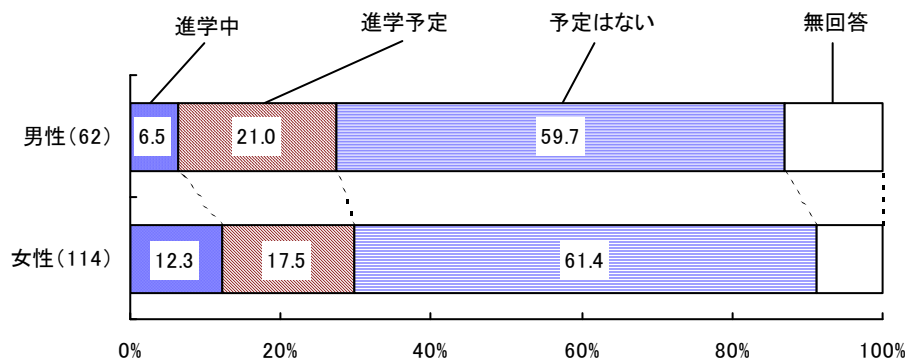
②進学予定の状況

【図-7】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況



看護師学校養成所2年課程（通信制）への進学を希望している会員に対して、今後の進学予定の状況について調査したところ、「進学中」が10.2%、「進学予定」が18.6%（2004年度調査では17.4%）である。

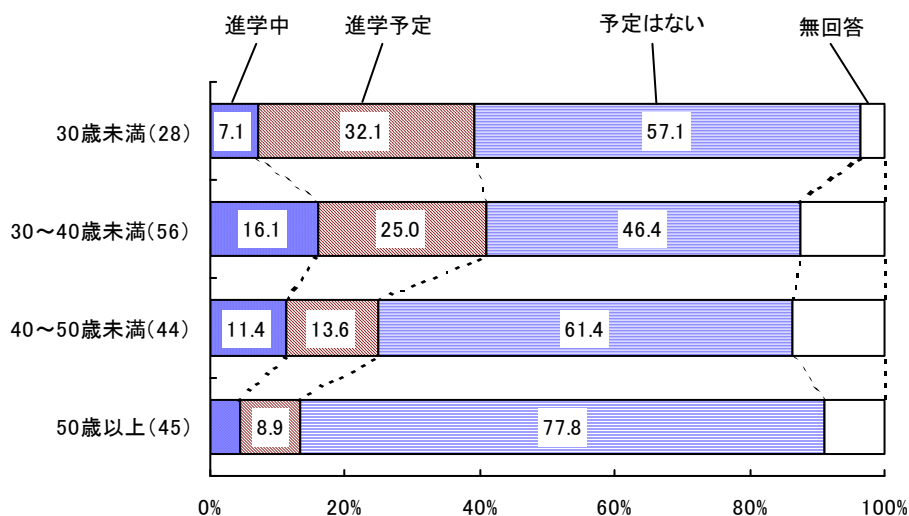
【図-8】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況(性別)



性別にみると、「進学中」と「進学予定」を併せた会員の割合は、“男性”“女性”ともに30%近くを占めている。

また、「進学中」と回答した会員の割合は“女性”が“男性”を上回っているのに対して、「進学予定」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を上回っている。

【図-9】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況(年齢別)



これを年齢別にみると、「進学中」と回答した会員の割合は、“30～40歳未満”で最も高く、16.1%を占めている。

また、30歳代以降は、年齢が高くなるに伴って「進学中」と回答した会員の割合が低下する傾向がみられ、“50歳以上”では5%に満たない。

「進学予定」と回答した会員の割合は、“30歳未満”が32.1%で最も高く、年齢が高くなるに伴って低下する傾向がみられる。

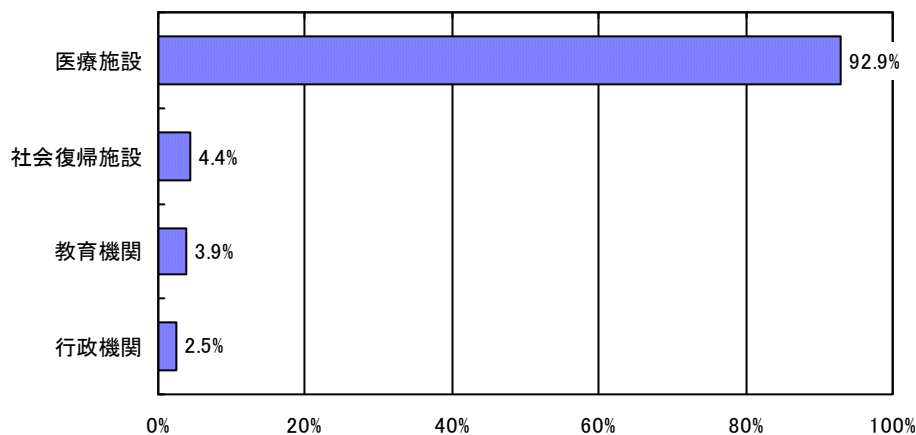
4) 勤務状況

①勤務経験施設

【図-10】

勤務経験施設

N=2036



看護師、准看護師、保健師、助産師等の免許を取得してから勤務経験がある施設（パートは含まない）について調査したところ、「医療施設」が92.9%（95.7%）で突出して高く、「社会復帰施設」「教育機関」「行政機関」での勤務経験がある会員は、いずれもわずかである。

②現在勤務している施設での勤務年数

【表-2】 現在勤務している施設での勤務年数 (S A、%)

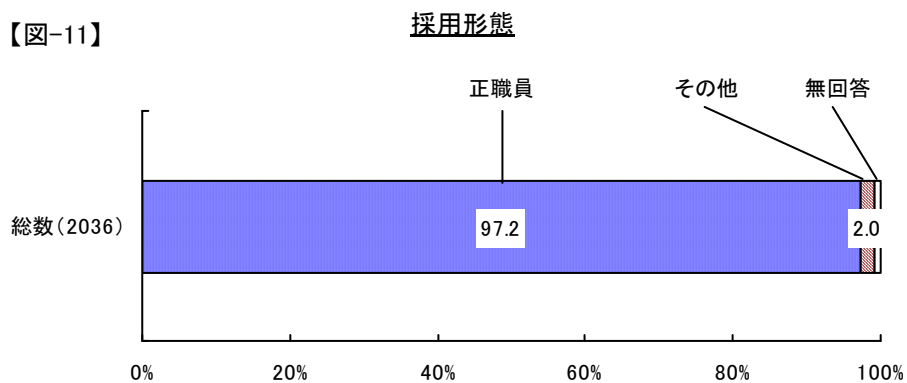
	1年 以下	2年	3年	4年	5～ 9年	10～ 14年	15～ 19年	20～ 24年	25年 以上	無 回答	平均 年数
総 数 (2036)	4.3	5.6	6.7	5.6	24.4	20.0	10.3	9.3	12.7	1.0	12.2
【設置主体別】											
国 (15)	6.7	0.0	0.0	6.7	13.3	20.0	20.0	20.0	13.3	0.0	15.5
公的機関 (274)	5.2	9.6	6.3	4.8	18.5	16.6	8.5	9.6	20.7	0.4	13.5
独立行政法人 (105)	2.9	6.7	10.5	7.6	21.9	10.5	10.5	7.6	21.9	0.0	13.2
社保関係団体 (21)	4.8	0.0	4.8	4.8	42.9	28.6	4.8	4.8	0.0	4.8	8.7
公益法人 (337)	4.5	4.5	6.5	7.1	25.8	19.6	11.9	8.3	11.6	0.3	12.1
医療法人 (1163)	4.2	4.7	6.8	5.3	24.8	22.2	10.5	10.0	11.1	0.4	12.1
学校法人 (24)	4.2	12.5	4.2	0.0	33.3	20.8	0.0	4.2	20.8	0.0	12.2
その他の法人 (14)	7.1	14.3	7.1	7.1	35.7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	6.7
個 人 (58)	3.4	12.1	5.2	6.9	32.8	12.1	12.1	10.3	5.2	0.0	10.0

現在勤務している施設での勤務年数について調査したところ、会員1人当たりの平均勤続年数は12.2年（11.7年）であり、2002年度の調査に比べてわずかながら長くなっている。

勤続年数をカテゴリー別にみると、現在の勤務先に10年以上勤務している会員の割合が52.3%（48.1%）を占めている。また、20年以上に渡って現在の勤務先に勤務している会員の割合は、22.0%を占めている（21.7%）。

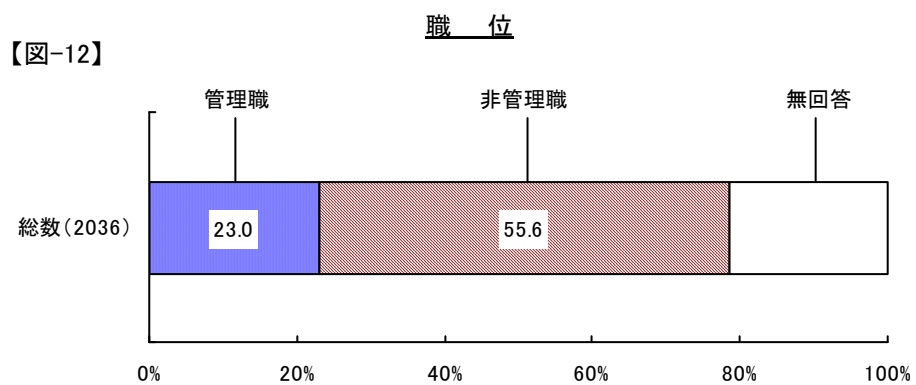
これを設置主体別にみると、会員1人当たりの平均勤続年数は、“医療法人”“個人”などの民間系の施設に比べて“国”“公的機関”“独立行政法人”といった国公立系の施設の方が長くなっている。

③採用形態



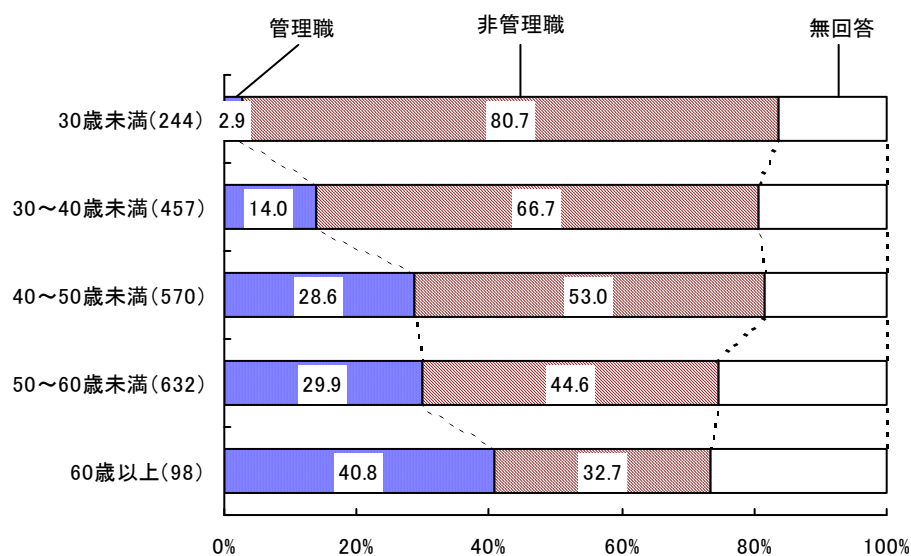
勤務先での採用形態について調査したところ、「正職員」の割合が97.2% (97.7%)を占めている。

④職位



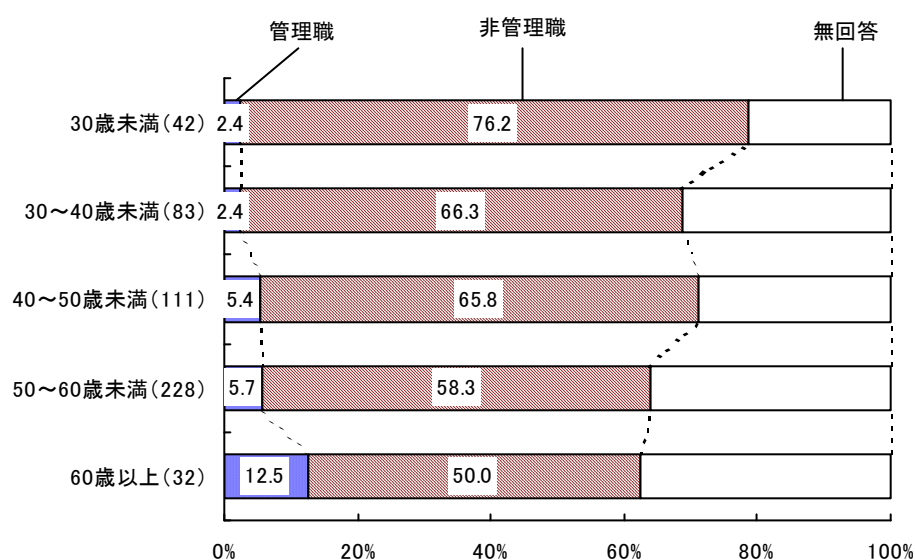
職位について調査したところ、「管理職」の割合は23.0% (23.3%)である。

【図-13】 職 位(年齢別)



職位の状況を年齢別にみると、「管理職」の割合は、年齢層が高くなるほど高まる傾向がみられる。特に40歳代を境に「管理職」の割合が急増し、「60歳以上」では40.8%を占めている。

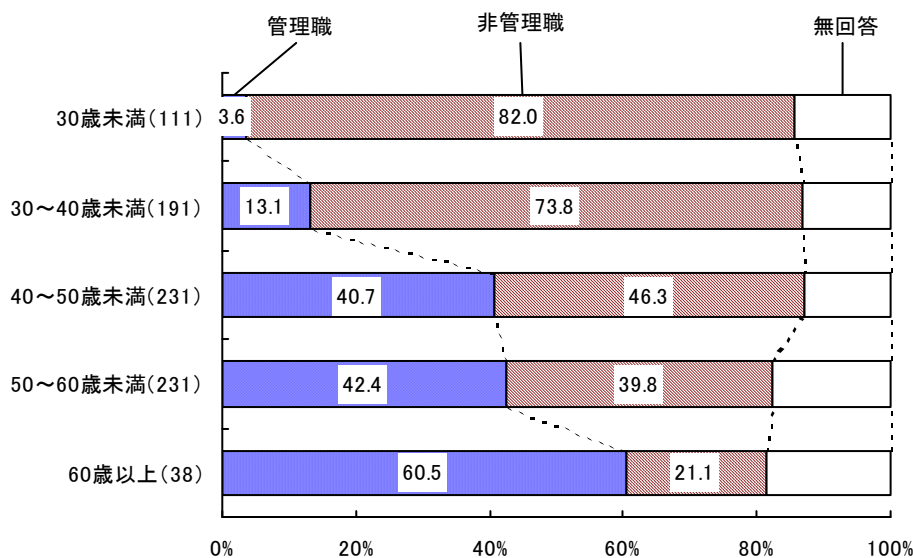
【図-14】 准看護師養成所・高校衛生看護学科卒者の職位(年齢別)



最終学歴が「准看護師養成所・高校衛生看護学科」である会員の職位の状況を年齢

別にみると、「管理職」の割合は、「60歳以上」でも12.5%（2004年度調査では12.9%）にとどまっている。

【図-15】 看護師養成所3年課程卒者の職位（年齢別）

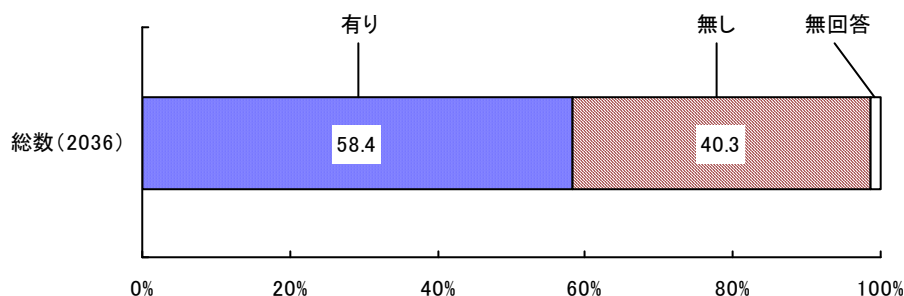


これを最終学歴が「看護師養成所3年課程」である会員の職位の状況を年齢別にみると、「管理職」の割合は、年齢層が高くなるに伴って大きく増加し、「60歳以上」では60.5%（2004年度調査では55.9%）を占めている。

最終学歴が、職位の状況に大きく影響しているとみられる。

5) 転職経験

【図-16】 転職経験の有無



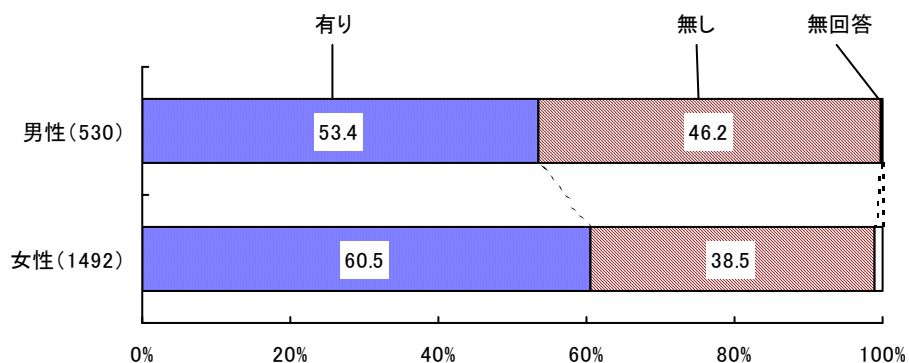
転職経験について調査したところ、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は

58.4% (56.9%) を占めており、ほぼ6割の会員が転職経験を有している。

2002年度の調査と比較すると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合がわずかながら高くなっている。

【図-17】

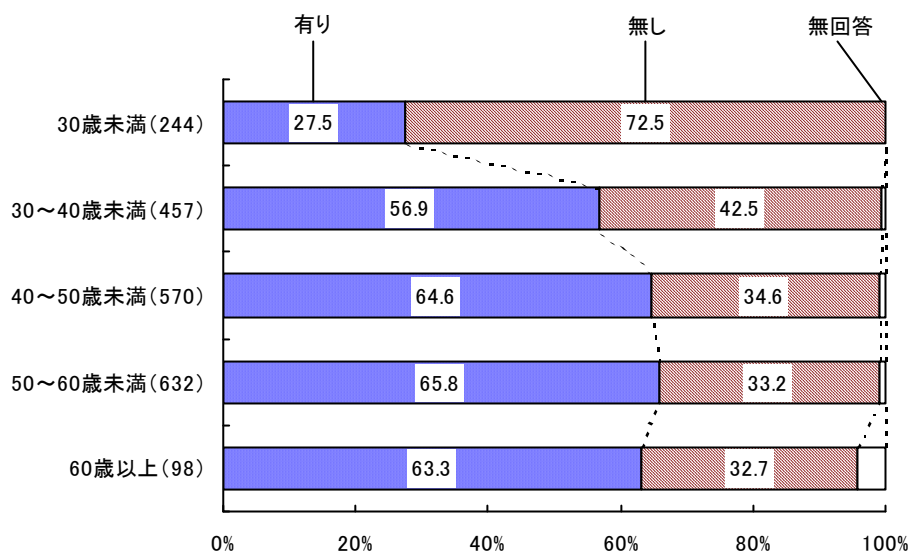
転職経験の有無(性別)



転職経験の有無を性別にみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は、“女性”が“男性”を約7ポイント上回っている。

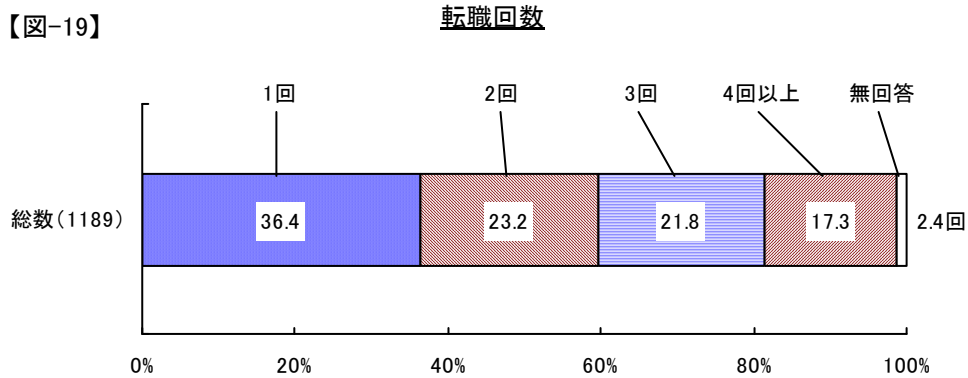
【図-18】

転職経験の有無(年齢別)



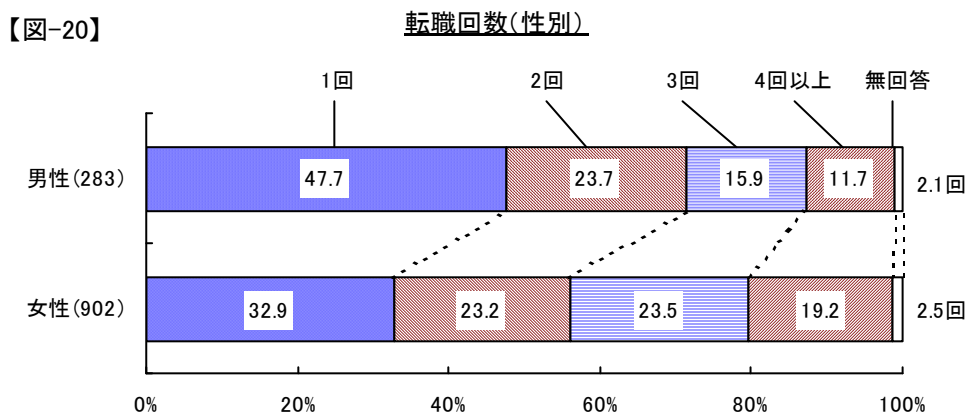
転職経験の有無を年齢別にみると、“30歳未満”から“30~40歳未満”にかけて「有り」と回答した会員の割合が急増しており、30歳代以上では半数以上の会員が転職を経験している。

ただ、40歳代以降になると、「有り」と回答した会員の割合はいずれの年齢層でも65%前後であり、年齢層による差はほとんど認められない。



続いて、転職経験がある1,189名の会員に対して、転職した回数について調査したところ、会員1人当たりの平均転職回数は2.4回（2.4回）である。

これをカテゴリー別にみると、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が62.3%（64.6%）を占めており、転職経験者の大半が複数回の転職を経験しているといえる。



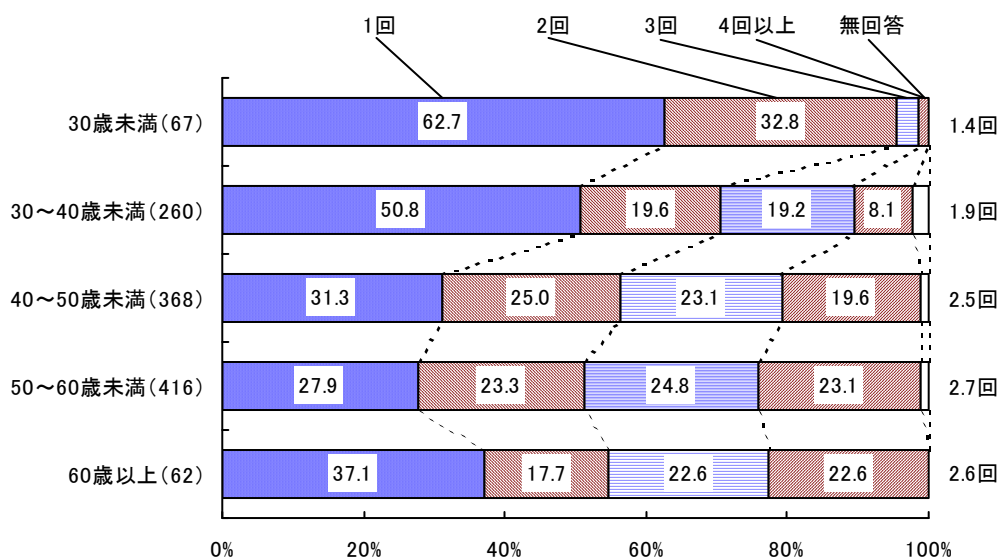
転職回数の状況を性別にみると、1人当たりの平均転職回数は、“男性”が2.1回（1.9回）、“女性”が2.5回（2.5回）であり、“女性”が“男性”を上回っている。

2002年度の調査と比較すると、“男性”の平均転職回数がわずかながら増えている。

また、複数回数の転職を経験している会員の割合は、“女性”が“男性”を15ポイント近く上回っている。

【図-21】

転職回数(年齢別)



転職回数の状況を年齢別にみると、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合は、40歳代を境に急増し、40歳代と50歳代では大半が複数回の転職を経験しているといえる。

また、40歳代を境に「4回以上」の割合が急増し、40歳代以降ではいずれの年齢層も20%前後を占めている。

§ 2. 勤務先について

1) 勤務先の状況

①主たる勤務先と診療科

【表-3】 主たる勤務先 (S A、%)

	総合病院	精神科病院	診療所	訪問看護ステーション	社会復帰施設	都道府県・市町村	企業	教育・研究機関	その他	無回答
総数 (2036)	8.8	85.8	0.4	0.7	0.6	0.4	0.0	1.1	1.3	0.7

主たる勤務先について調査したところ、「精神科病院」の割合が85.8%（2004年度の調査では85.4%）を占めており、ほとんどの会員が「精神科病院」を主たる勤務先としている。

【表-4】 勤務している診療科 (S A、%)

	精神科	神経科	神経内科	心療内科	内科	外科	その他	無回答
総数 (1927)	90.1	0.7	0.3	0.1	1.0	0.2	2.2	5.4

また、病院を主たる勤務先としている会員に対して、勤務している診療科について調査したところ、「精神科」の割合が90.1%（2004年度の調査では91.5%）を占めており、病院勤務者のほとんどが「精神科」に勤務している。

②勤務先の設置主体

【表-5】 勤務先の設置主体 (S A、%)

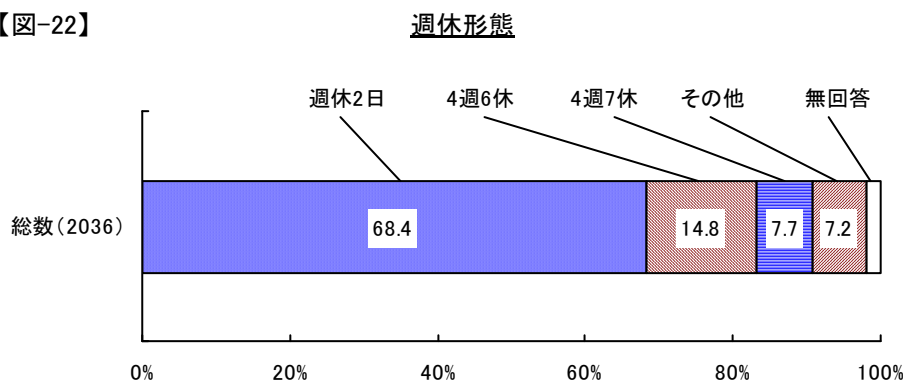
	国	公的機関	独立行政法人	社会保険関係団体	公益法人	医療法人	学校法人	会社	その他の法人	個人	無回答
総数 (2036)	0.7	13.3	5.2	1.0	16.6	57.1	1.2	0.0	0.7	2.8	1.4

勤務先の設置主体について調査したところ、「医療法人」の割合が57.1%（2004年度の調査では59.5%）で最も高く、これに「公益法人」が16.6%（2004年度の調査では16.0%）、「公的機関」が13.3%（2004年度の調査では14.6%）・・・と続いている。

2) 勤務形態

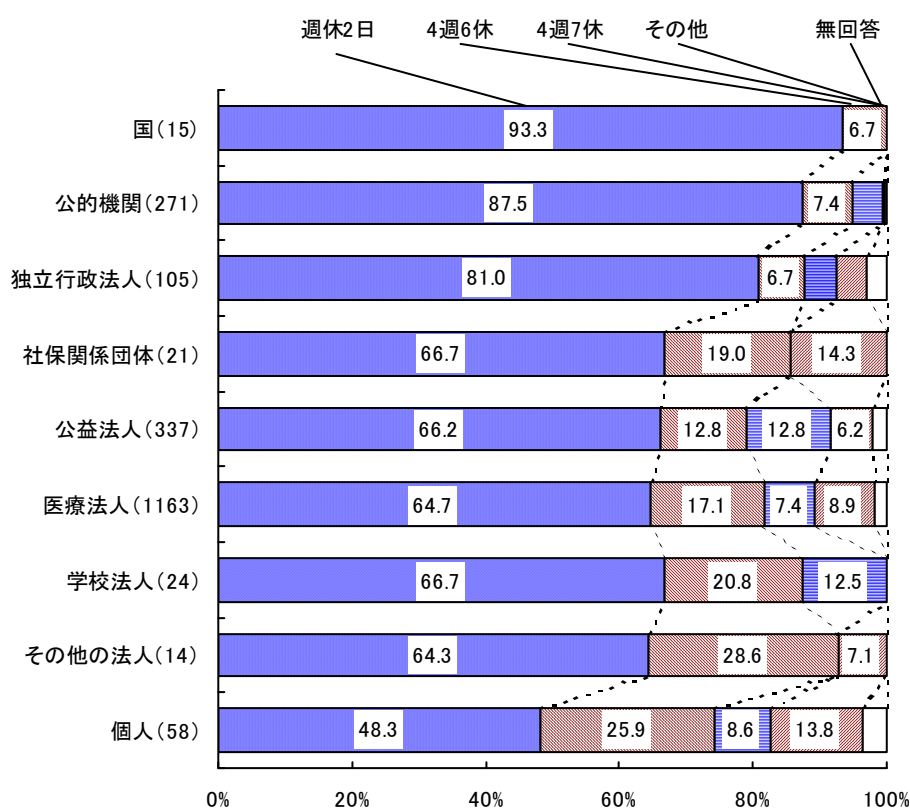
①週休形態

【図-22】



勤務先の週休形態について調査したところ、「週休2日」と回答した会員の割合が68.4%（2004年度の調査では69.3%）を占めている。

【図-23】 週休形態(設置主体別)

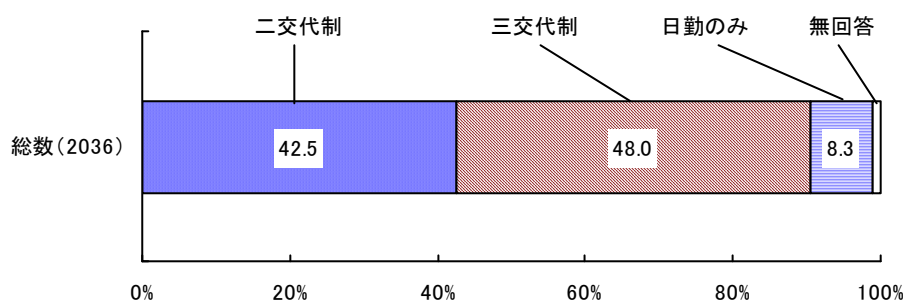


週休形態の状況を設置主体別にみると、「週休2日」と回答した会員の割合は、“国” “公的機関” “独立行政法人” といった国公立系の施設がいずれも80%を超えているのに対して、他の設置主体の施設ではいずれも60%台以下となっている。

特に“個人”では同割合が48.3%と低く、設置主体によって週休形態の状況に大きな差があるとみられる。

②勤務体制

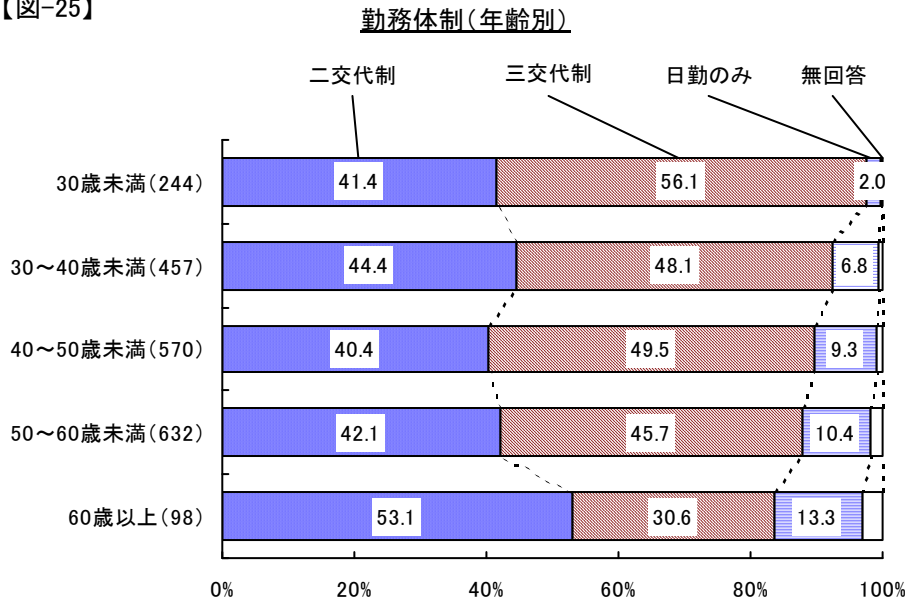
【図-24】 勤務体制



勤務先の勤務体制について調査したところ、「三交代制」と回答した会員の割合が48.0%（2004年度の調査では50.3%）を占め、「二交代制」が42.5%（2004年度の調査では40.6%）となっている。

2004年度の調査と比較すると、「三交代制」の割合がわずかながら高まり、「二交代制」の割合がわずかながら低下している。

【図-25】

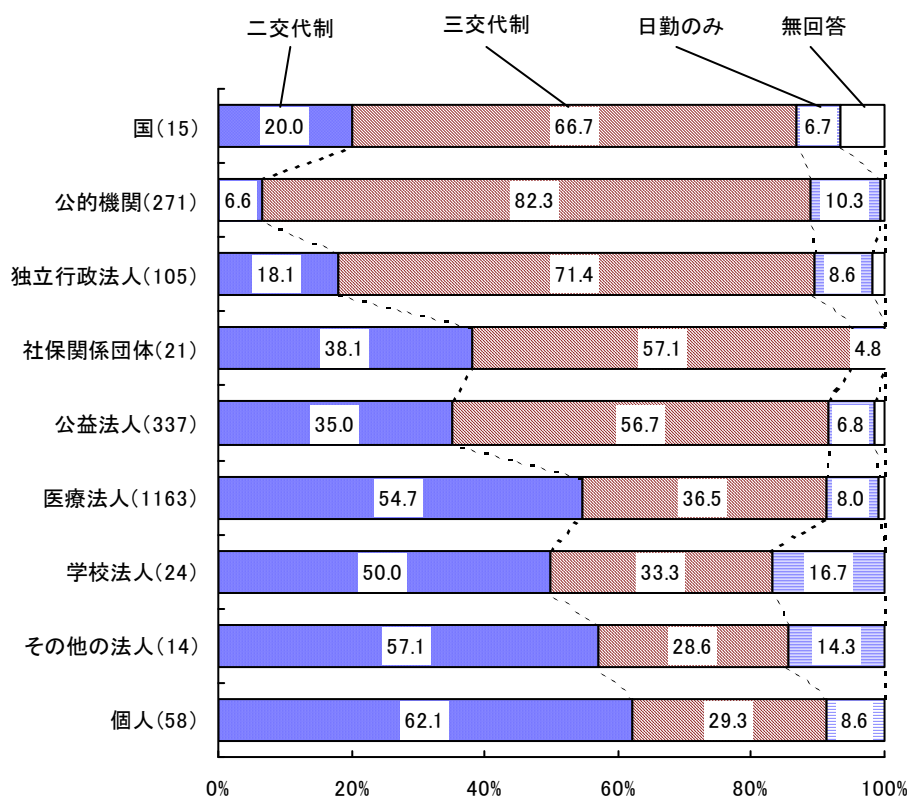


年齢別にみると、「二交代制」と回答した会員の割合は、30歳未満から50歳代にかけてほとんど変わらないものの、60歳以上では半数以上を占めている。

また、「三交代制」と回答した会員の割合は、年齢層が高くなるほど低下する傾向がみられ、“60歳以上”では約30%にまで低下する。対して、「日勤のみ」の割合は、年齢層が高くなるに伴って高くなり、“60歳以上”では13.3%を占めている。

【図-26】

勤務体制(設置主体別)



次に勤務先の設置主体別にみると、「二交代制」と回答した会員の割合は、“医療法人”“学校法人”“個人”がいずれも半数以上を占めているのに対して、“国”“公的機関”“独立行政法人”は2割以下である。

中でも“公的機関”は、「三交代制」が8割以上を占めていおり、設置主体によって、勤務体制の状況に大きな差があるとみられる。

3) 勤務先への満足度

①現在の勤務先を選んだ理由

【表-6】 現在の勤務先を選んだ理由 (S A、%)

	勤務先の理念	勤務先の規模・安定性	通勤の利便性	給与	進学に対する配慮	労働時間・労働量・夜勤体制	出産・育児・介護への配慮	家族・知人の勧め	その他	特にない	無回答
総 数 (2036)	5.0	15.8	25.4	2.4	4.9	7.0	2.0	16.1	11.2	8.7	1.5
【性 別】											
男 性 (530)	4.9	19.2	14.0	3.4	8.1	4.3	0.0	23.4	9.3	11.9	1.5
女 性 (1492)	5.0	14.5	29.6	2.1	3.8	7.9	2.7	13.5	11.9	7.6	1.5
【年 齢 別】											
30 歳未満 (244)	6.6	17.6	17.2	3.3	4.1	7.0	1.2	14.8	16.0	11.5	0.8
30～40 歳未満 (457)	4.4	13.8	16.6	4.4	8.5	9.2	2.6	15.5	13.2	10.5	1.3
40～50 歳未満 (570)	3.7	15.6	27.9	2.3	5.4	9.3	2.6	14.4	10.4	7.2	1.2
50～60 歳未満 (632)	6.2	17.4	31.6	1.1	2.5	3.8	1.4	17.9	8.5	7.9	1.6
60 歳以上 (98)	5.1	10.2	30.6	1.0	0.0	4.1	0.0	20.4	13.3	10.2	5.1
【設置主体別】											
国 (15)	6.7	46.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	20.0	0.0
公的機関 (271)	5.2	38.0	16.6	2.2	1.1	3.7	0.7	8.9	14.4	8.9	0.4
独立行政法人 (105)	8.6	32.4	21.9	1.9	2.9	1.9	0.0	13.3	11.5	2.9	2.9
社保関係団体 (21)	0.0	19.0	23.8	4.8	4.8	9.5	0.0	9.5	4.8	23.8	0.0
公益法人 (337)	4.2	13.9	22.0	2.1	8.3	5.6	0.6	17.5	15.1	8.6	2.1
医療法人 (1163)	4.5	9.5	29.6	2.5	5.2	8.7	2.9	17.9	9.5	8.7	1.2
学校法人 (24)	25.0	37.5	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	4.2	0	8.3	4.2
その他の法人 (14)	14.3	14.3	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	7.1	0.0
個 人 (58)	3.4	8.6	24.1	1.7	3.4	12.1	1.7	19.0	10.3	15.5	0.0

現在の勤務先を選んだ理由（最も大きな理由）について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が 25.4%（2004 年度の調査では 26.3%）で最も高く、これに「家族・知人の勧め」が 16.1%、「勤務先の規模・安定性」が 15.8%（2004

年度の調査では 21.5%)・・・と続いている。

これを性別にみると、“男性”は、「家族・知人の勧め」を挙げた会員の割合が最も高いのに対して、“女性”は、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

年齢別にみると、年齢が高い層で「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が高くなっている。

設置主体別にみると、“国”“公的機関”“独立行政法人”“学校法人”は、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高い。

一方、“医療法人”は、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

②勤務先で満足している項目

【表-7】 現在の勤務先で満足している項目 (S A、%)

	勤務先の理念	勤務先の規模・安定性	通勤の利便性	給与	人間関係	業務内容	労働時間・労働量・夜勤体制	出産・育児・介護への配慮	その他	特にない	無回答
総 数 (2036)	5.4	9.8	24.2	2.8	14.2	3.3	11.6	2.7	6.4	17.9	1.8
【性 別】											
男 性 (530)	5.7	11.3	18.1	3.6	16.8	3.4	11.9	0.9	6.6	19.6	2.1
女 性 (1492)	5.3	9.2	26.3	2.5	13.4	3.3	11.5	3.3	6.4	17.4	1.6
【年 齢 別】											
30 歳未満 (244)	2.9	6.1	12.7	2.9	26.6	4.5	14.3	2.5	8.4	17.6	0.4
30～40 歳未満 (457)	2.6	7.0	20.1	3.9	17.7	2.6	12.3	5.9	6.4	20.1	1.3
40～50 歳未満 (570)	6.5	9.3	25.8	3.2	11.1	2.6	13.0	2.8	6.0	18.6	1.2
50～60 歳未満 (632)	6.8	13.0	29.6	1.6	10.1	3.2	10.1	0.8	5.7	16.8	2.4
60 歳以上 (98)	9.2	15.3	25.5	2.0	12.2	8.2	4.1	0.0	6.1	12.2	5.1
【設置主体別】											
国 (15)	0.0	46.7	20.0	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	20.0	0.0
公的機関 (271)	5.2	15.1	17.7	7.7	13.7	4.1	8.9	1.8	7.7	16.6	1.5
独立行政法人 (105)	2.9	12.4	20.0	2.9	12.4	3.8	11.4	2.9	8.6	21.0	1.9
社保関係団体 (21)	0.0	9.5	19.0	0.0	14.3	4.8	19.0	0.0	4.8	28.6	0.0
公益法人 (337)	4.5	8.9	25.2	1.8	13.6	2.1	13.1	3.0	6.6	18.7	2.7
医療法人 (1163)	5.8	7.9	25.8	2.0	15.0	3.1	12.0	2.9	6.4	18.1	1.2
学校法人 (24)	16.7	16.7	12.5	8.3	12.5	12.5	4.2	0.0	4.2	12.5	0.0
その他の法人 (14)	7.1	14.3	28.6	0.0	7.1	7.1	14.3	0.0	7.1	14.3	0.0
個 人 (58)	5.2	6.9	29.3	1.7	22.4	3.4	10.3	3.4	1.7	13.8	1.7

通勤先で最も満足している項目について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が24.2%（2004年度の調査では22.6%）で最も高く、これに「人間関係」が14.2%（2004年度の調査では11.3%）、「労働時間・労働量・夜勤体制」が11.6%（2004年度の調査では12.2%）、「勤務先の規模・安定性」が9.8%（2004年度の調査では13.9%）・・・と続いている。

これを性別にみると、“男性”と“女性”がともに「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

年齢別にみると、“30歳未満”では「人間関係」を挙げた会員の割合が最も高く、30歳代以上の層では、いずれの層においても「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。また、年齢層が高くなるに伴い、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が高くなる傾向がみられ、年齢層が低くなるに伴い、「労働時間・労働量・夜勤体制」を挙げた会員の割合が低下する傾向がみられる。

設置主体別にみると、“国”“学校法人”では、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高く、他の設置主体では、いずれも「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

③勤務先で不満に感じている項目

【表-8】 現在の勤務先で不満に感じている項目 (S A、%)

	通勤の 利便性	給 与	福 利 厚 生	人 間 関 係	業 務 内 容	昇 格 規 定	労 働 時 間・ 労 働 量・ 夜 勤 体 制	研 修 の 充 実	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総 数 (2036)	2.5	32.9	4.7	9.3	11.1	3.4	7.9	2.9	5.4	16.2	3.6
【年 齢 別】											
30 歳未満 (244)	2.9	40.2	3.3	5.7	9.8	2.9	9.8	2.5	6.9	14.8	1.2
30～40 歳未満 (457)	2.4	40.3	3.9	6.1	11.4	3.9	8.5	4.4	5.9	11.6	1.5
40～50 歳未満 (570)	2.8	36.5	4.2	11.6	12.1	3.9	6.8	3.2	4.4	11.8	2.8
50～60 歳未満 (632)	2.4	24.2	5.5	10.9	11.2	3.3	8.4	2.1	5.0	21.5	5.5
60 歳以上 (98)	2.0	14.3	9.2	8.2	8.2	0.0	3.1	3.1	9.2	32.7	10.2
【設置主体別】											
国 (15)	0.0	33.3	0.0	13.3	20.0	0.0	13.3	6.7	0.0	13.3	0.0
公的機関 (271)	5.2	15.5	1.5	8.9	10.7	4.1	17.3	3.0	7.8	21.0	5.2
独立行政法人 (105)	1.0	22.9	3.8	15.2	10.5	7.6	12.4	2.9	4.9	15.2	3.8
社保関係団体 (21)	4.8	28.6	4.8	14.3	4.8	0.0	19.0	4.8	4.8	14.3	0.0
公益法人 (337)	3.3	34.4	5.3	9.5	11.9	3.0	5.9	3.9	6.8	14.5	1.5
医療法人 (1163)	1.8	37.1	5.4	8.7	11.2	3.3	5.4	2.9	4.6	16.0	3.6
学校法人 (24)	8.3	12.5	0.0	8.3	8.3	8.3	29.2	0.0	8.4	16.7	0.0
その他の法人 (14)	0.0	28.6	7.1	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	7.1	14.3	0.0
個 人 (58)	1.7	53.4	3.4	6.9	6.9	0.0	3.4	0.0	6.9	13.8	3.4

通勤先で最も不満に感じている項目について調査したところ、「給与」を挙げた会員の割合が32.9%（2004年度の調査では30.8%）で最も高く、これに「業務内容」が11.1%（2004年度の調査では11.2%）、「人間関係」が9.3%（2004年度の調査では9.4%）・・・と続いている。

年齢別にみると、「給与」と回答した会員の割合は、年齢が高くなるほど低下する傾向がみられ、給与への不満を持っている会員は、比較的若い層に多いようである。“60歳以上”では、同割合が14.3%にまで低下している。

また、“60歳以上”では「特にない」との回答が32.7%を占め、高齢層は、若い層

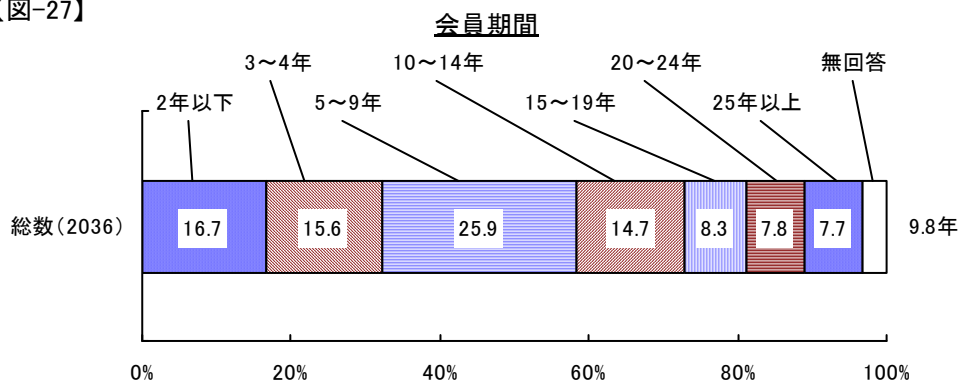
に比べて勤務先に不満がないと感じている会員の割合が高い。

設置主体別にみると、“公的機関”“学校法人”で「労働時間・労働量・夜勤体制」を挙げた会員の割合が最も高く、他の設置主体はいずれも「給与」を挙げた会員の割合が最も高くなっている。

§ 3. 会員について

1) 会員期間

【図-27】



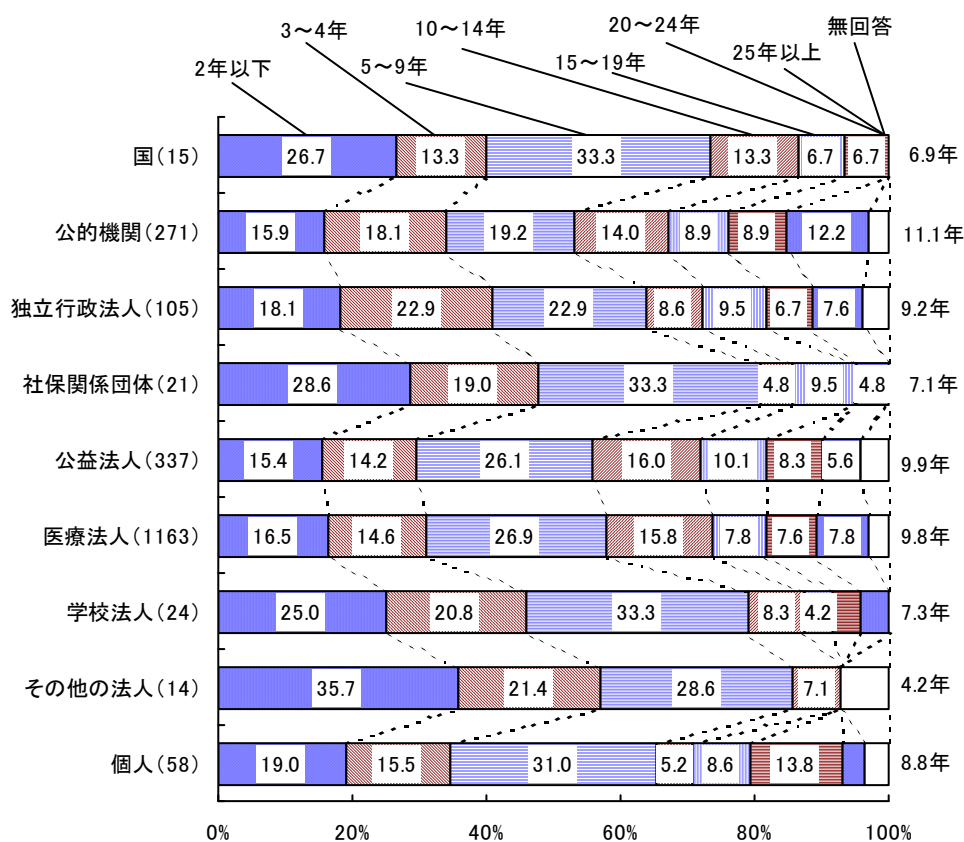
会員期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は9.8年（9.2年）である。

これをカテゴリー別にみると、会員期間が5年未満の会員歴の浅い会員が32.3%（38.7%）、同5～20年未満の中堅会員が48.9%（43.9%）、同20年以上のベテラン会員が15.5%（13.9%）となっている。

2002年度の調査と比較すると、会員歴の浅い会員の割合が低下し、中堅会員やベテラン会員の割合が増加している。

【図-28】

会員期間



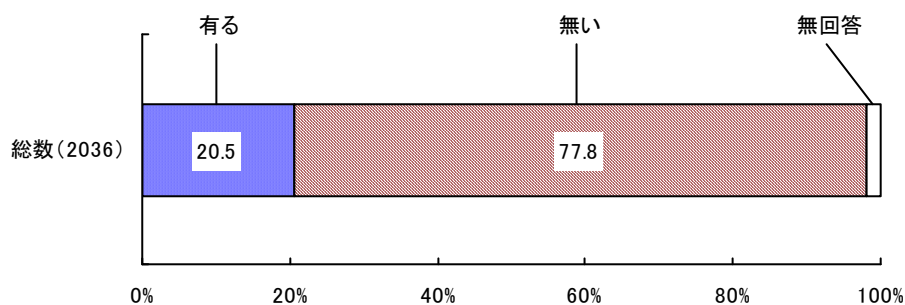
設置主体別にみると、会員期間の平均値は、“公的機関”が11.1年で最も長く、“独立行政法人”“公益法人”“医療法人”が10年前後となっている。

また、“公的機関”は、25年以上の会員の割合が10%を超えている。

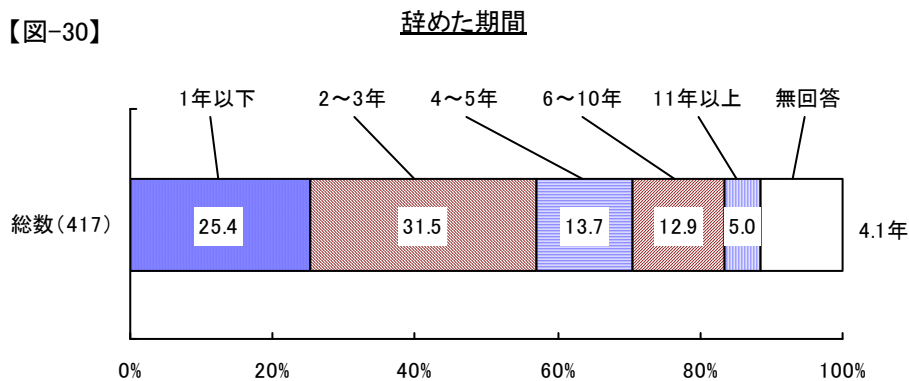
2) 会員を辞めた経験

【図-29】

会員を辞めた経験



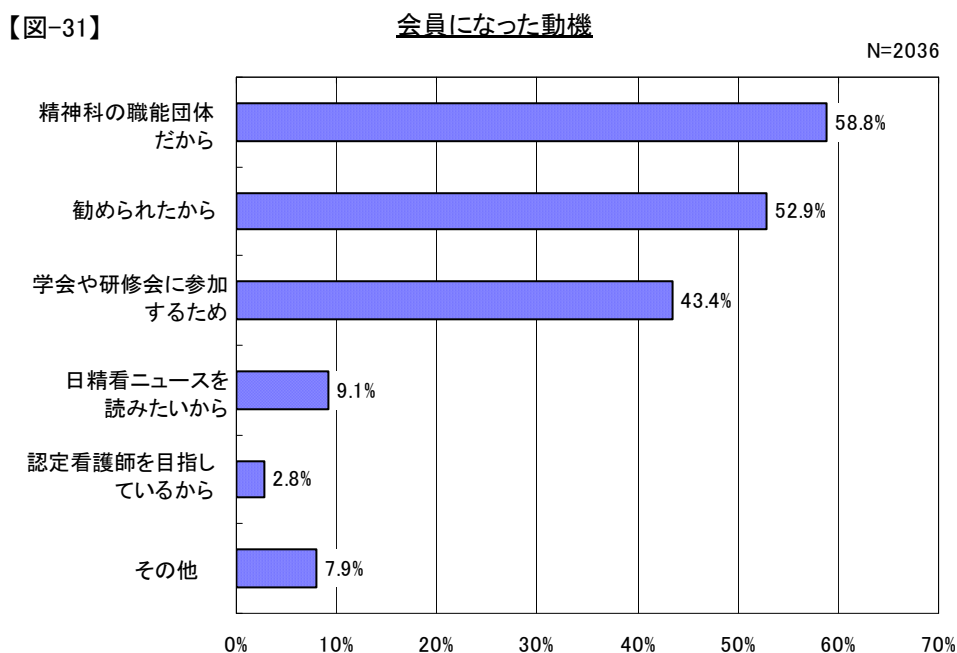
会員を辞めた経験について調査したところ、辞めた経験が「有る」と回答した会員の割合は20.5%（18.8%）である。



会員を辞めた経験がある417名の会員に対して、会員を辞めた期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は4.1年（4.2年）である。

これをカテゴリー別にみると、半数以上の会員が3年以下と短期間である。一方、「11年以上」と長期にわたって辞めていた会員の割合は5.0%（6.4%）である。

3) 会員になった動機



会員になった動機について調査したところ、「精神科の職能団体だから」との動機

を挙げた会員の割合が 58.8% (55.2%) で最も高く、これに「勧められたから」が 52.9% (43.4%)、「学会や研修会に参加するため」が 43.4% (44.2%)・・・と続いている。

2002 年度の調査と比較すると、「勧められたから」との動機を挙げた会員の割合が 10 ポイント程度増えている。

【表-9】 会員になった動機（年齢別） (MA)

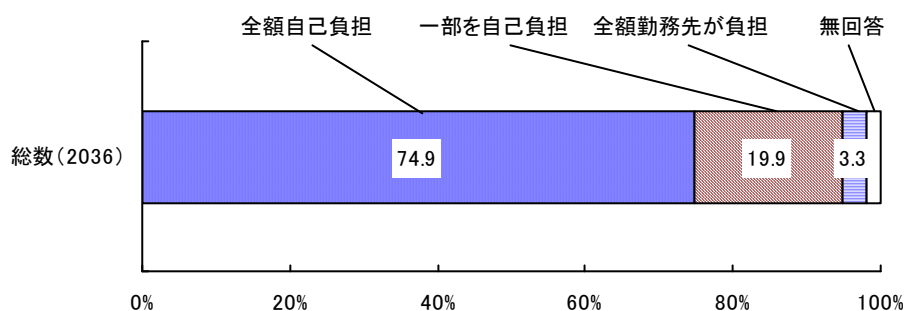
	精神科の職能団体だから	ため 学会や研修会に参加する	から 日精看ニュースを読みたい	から 認定看護師を目指している	勧められたから	その他
【年 齢 別】						
30 歳未満 (244)	47.1	34.0	2.5	3.7	64.3	7.4
30～40 歳未満 (457)	52.1	42.5	6.3	4.4	54.7	7.7
40～50 歳未満 (570)	60.4	46.1	8.1	3.7	51.8	8.6
50～60 歳未満 (632)	64.7	47.6	12.2	0.9	51.3	7.6
60 歳以上 (98)	69.4	33.7	24.5	1.0	35.7	9.2

これを年齢別にみると、40 歳代以上では、いずれの年齢層においても「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が最も高く、40 歳未満では、「勧められたから」との動機を挙げた会員の割合が最も高い。

ベテランになると、能動的な項目を動機としている会員の割合が高いのに対して、若年層では受け身的な項目を動機としている会員の割合が高く、年齢層によって会員になった動機の状態に差があるといえる。

4) 会費の負担状況

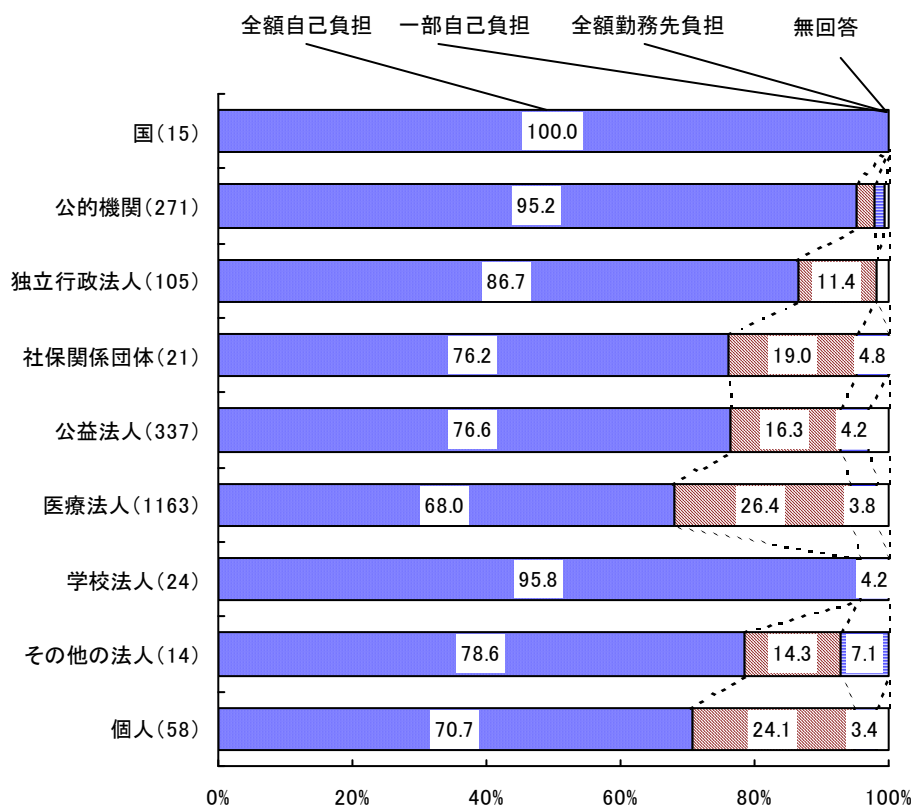
【図-32】 会費の自己負担の状況



会費の負担状況について調査したところ、「全額自己負担」している会員の割合が74.9%（76.2%）を占めている。

【図-33】

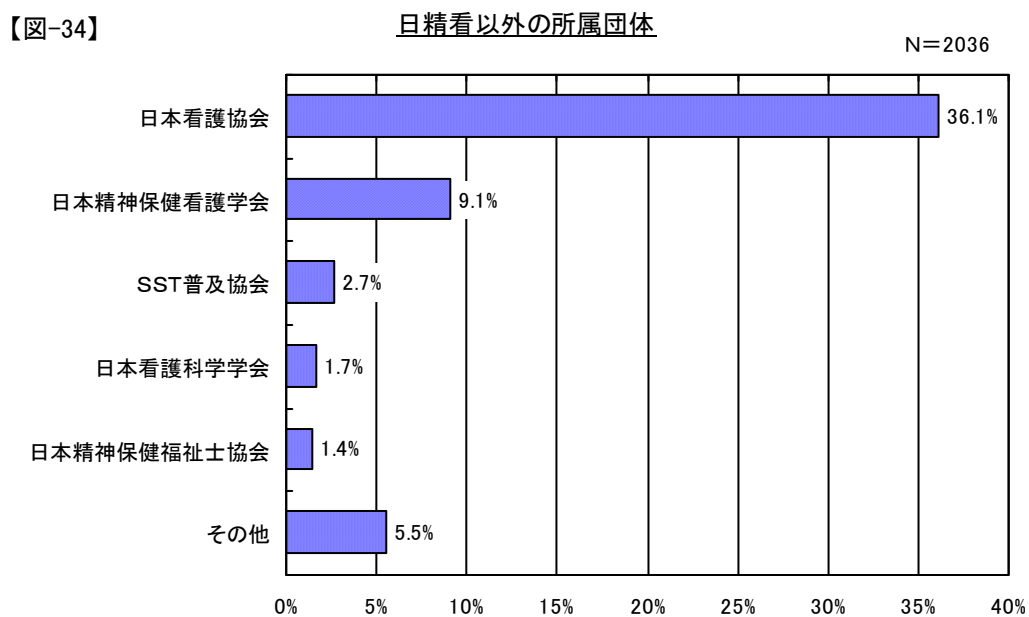
会費の自己負担の状況(設置主体別)



これを設置主体別にみると、「全額自己負担」している会員の割合は、“国”“公的機関”“学校法人”が9割を超えている。

一方、他の設置主体をみると、同割合が70%台のところが多くなっており、設置主体によって、会費の自己負担の状況に差がみられる。

5) 日精看以外の所属団体



日精看以外に所属している団体について調査したところ、「日本看護協会」を挙げた会員の割合が36.1%（38.8%）で突出して高く、これに「日本精神保健看護学会」が9.1%（9.1%）で続いている。

【表-10】

日精看以外の所属団体（設置主体別）

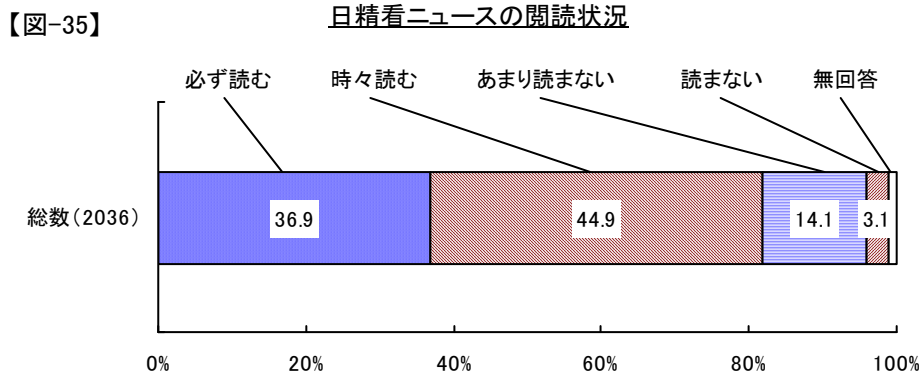
(MA)

	日本看護協会	日本精神保健看護学会	SST普及協会	日本看護科学学会	日本精神保健福祉士協会	その他	無回答
【設置主体別】							
国（15）	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	33.3
公的機関（271）	65.7	7.0	1.8	3.0	2.6	6.3	30.3
独立行政法人（105）	44.8	14.3	1.9	2.9	6.7	11.4	41.0
社保関係団体（21）	42.9	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.1
公益法人（337）	38.0	11.0	1.2	1.5	0.9	6.5	49.0
医療法人（1163）	27.2	8.2	1.3	2.9	1.3	4.9	60.9
学校法人（24）	83.3	12.5	0.0	4.2	8.3	4.2	12.5
その他の法人（14）	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	57.1
個人（58）	17.2	15.5	1.7	3.4	1.7	1.7	65.5

設置主体別にみると、「日本看護協会」を挙げた会員の割合は、“国”“公的機関”が“医療法人”を40ポイント近く上回っている。

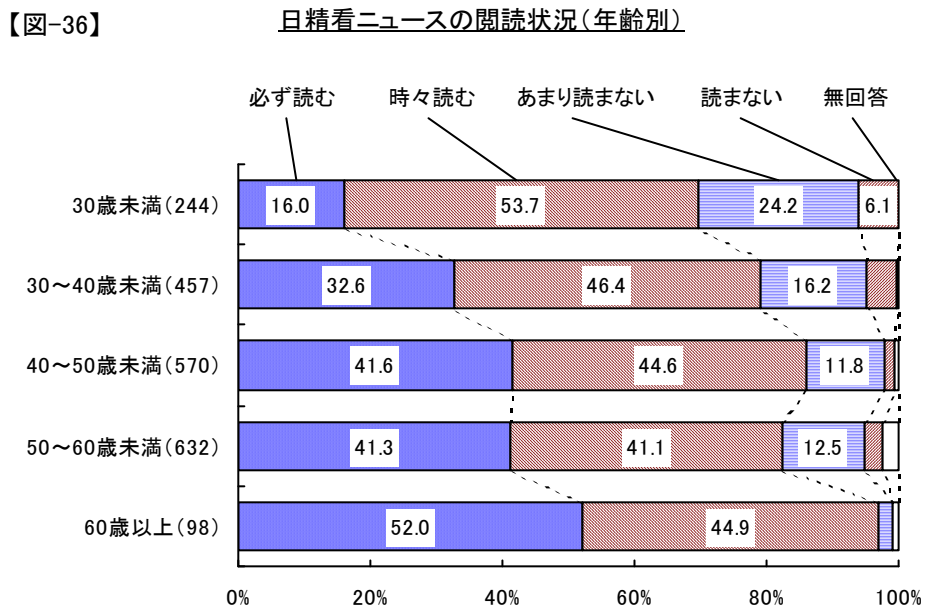
§ 4. 協会について

1) 『日精看ニュース』の閲読状況



『日精看ニュース』の閲読状況について調査したところ、「必ず読む」会員の割合が36.9% (37.4%) である。「時々読む」会員の割合である44.9% (48.1%) を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。

ただ、2002年度の調査と比較すると、閲読している会員の割合が4ポイント近く低下しており、この4年間で閲読率が向上していないと推察される。

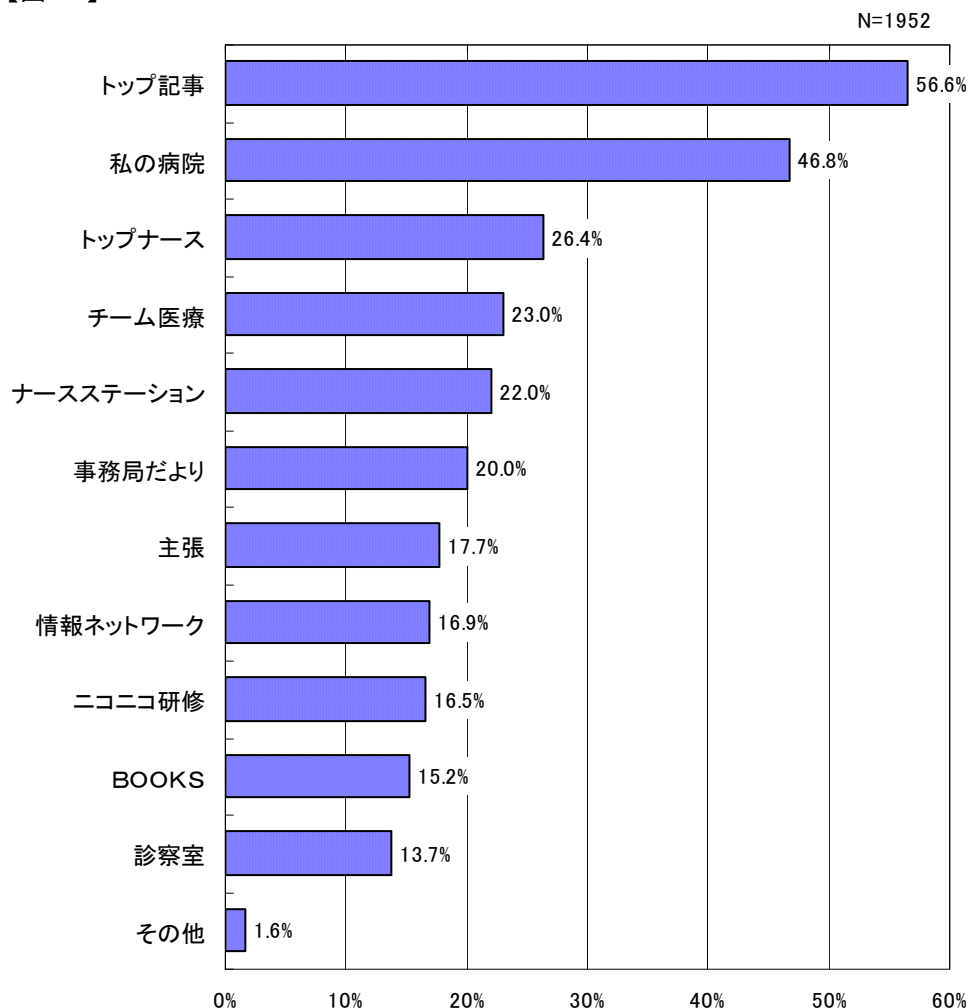


年齢別にみると、年齢層が高くなるほど閲読している会員の割合が高まる傾向がみ

られ、特に“60歳以上”では、96.9% (94.9%) の会員が閲読しており、52.0% (60.2%) の会員が「必ず読む」と回答している。

【図-37】

日精看ニュースでよく見る記事



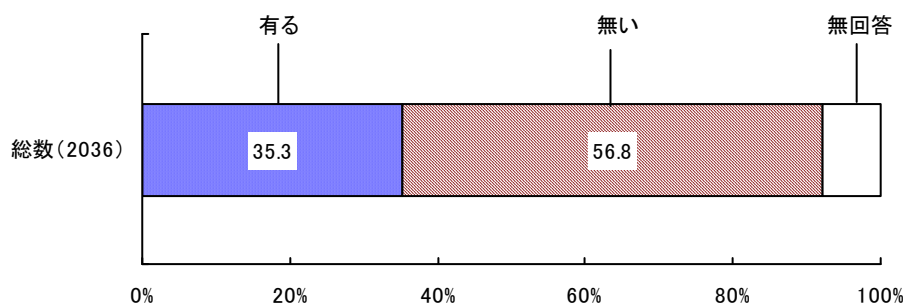
続いて、日精看ニュースを閲読している1,952名の会員に対して、よく見る記事について調査したところ、「トップ記事」を挙げた会員が56.6% (2004年度の調査では53.1%) で半数以上を占め、これに「私の病院」が46.8% (2004年度の調査では44.4%)、「トップナース」が26.4% (2004年度の調査では21.2%)、「チーム医療」が23.0%、「ナースステーション」が22.0% (2004年度の調査では19.1%)、「事務局だより」が20.0% (2004年度の調査では16.7%)・・・と続いている。

2) 学会と研修会

①全国学会

【図-38】

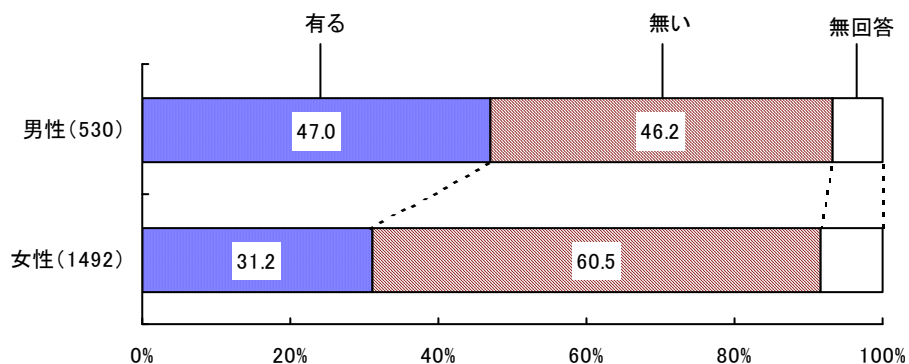
全国学会の参加経験の有無



日精看主催の全国学会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は35.3%（2004年度の調査では39.1%）である。

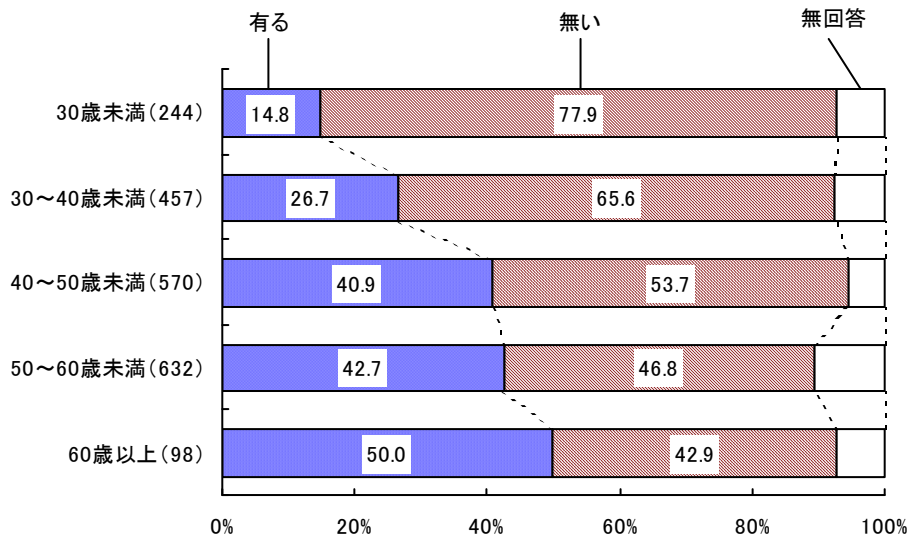
【図-39】

全国学会の参加経験の有無(性別)



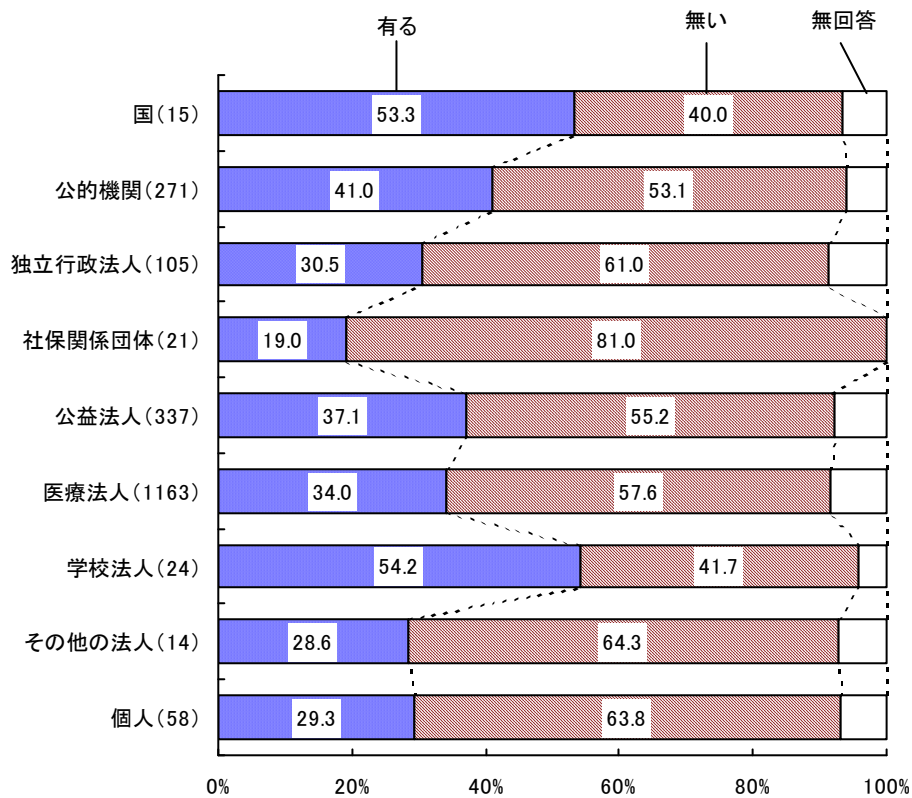
性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、「男性」が「女性」を16ポイント近く上回っている。

【図-40】 全国学会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、参加経験のある会員の割合が高くなり、60歳以上では半数を占めている。

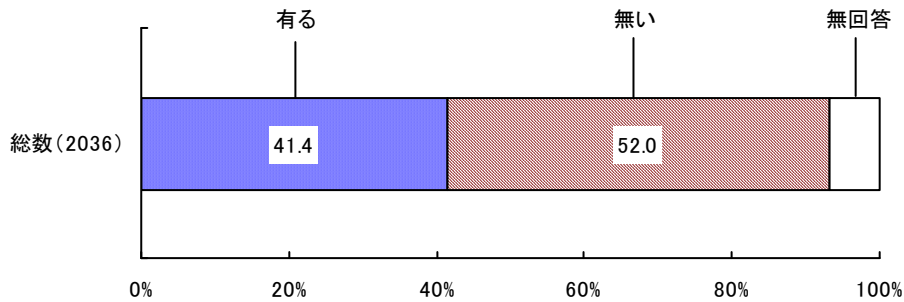
【図-41】 全国学会の参加経験の有無(設置主体別)



設置主体別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“医療法人”“個人”などの民間系の施設に比べて、“国”“公的機関”などの国公立系の施設で高くなっている。

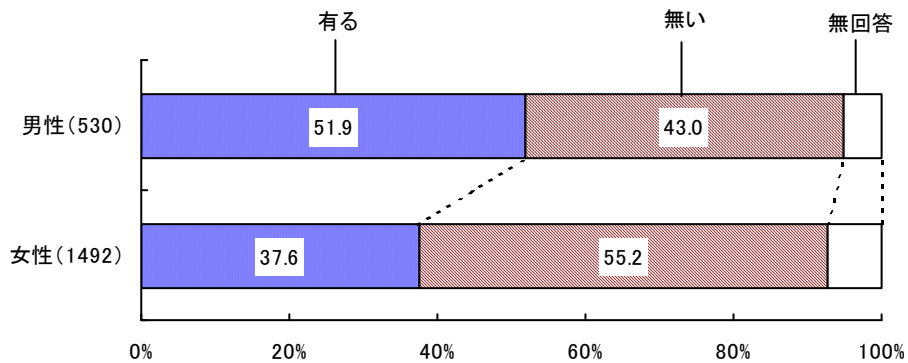
②専門学会

【図-42】 専門学会の参加経験の有無



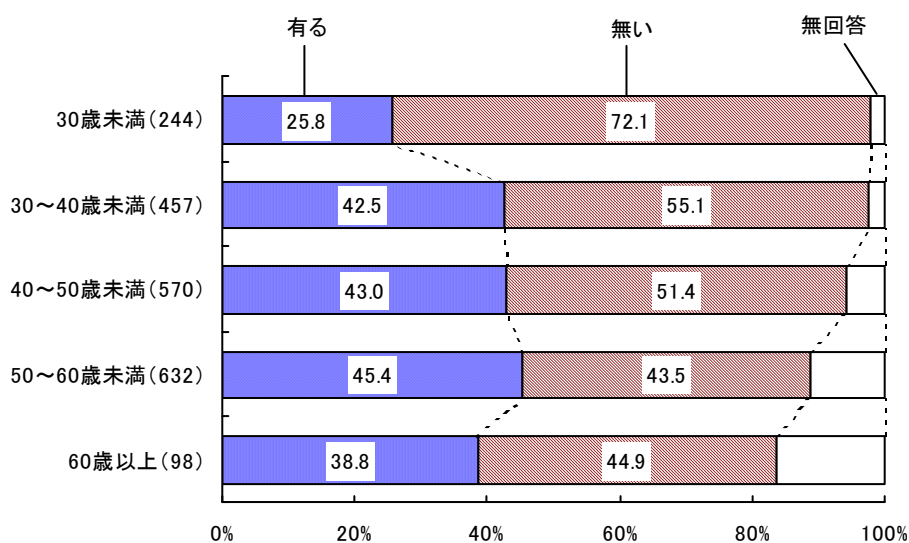
日精看主催の専門学会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は 41.4%（2004 年度の調査では 44.6%）である。

【図-43】 専門学会の参加経験の有無(性別)



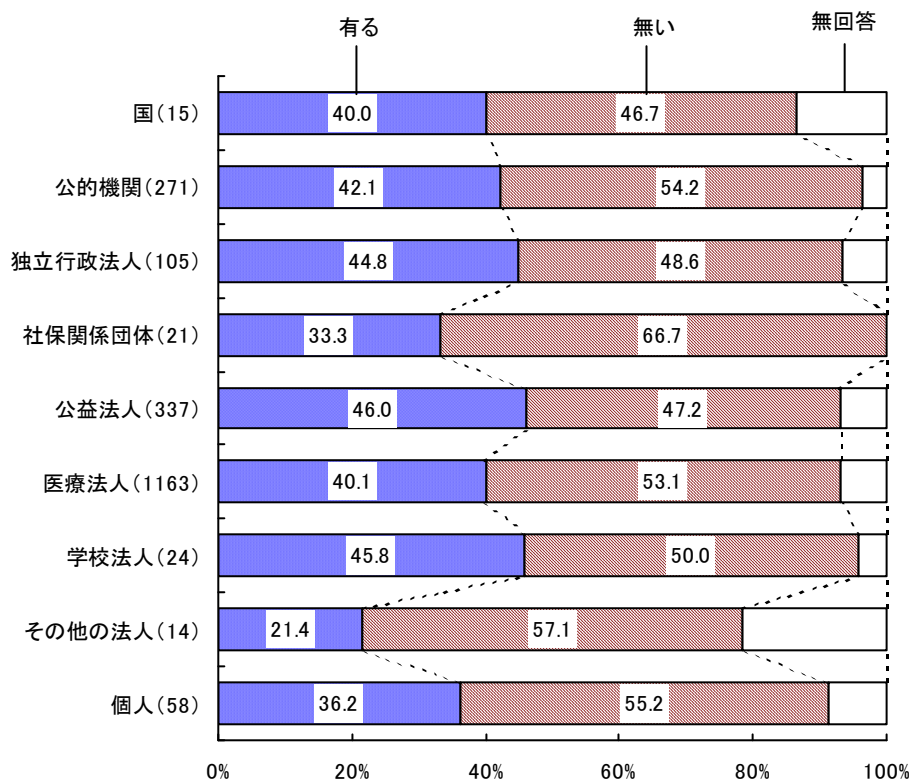
性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を 14 ポイント以上上回っている。

【図-44】 専門学会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、30歳未満から30歳代にかけて参加経験のある会員の割合が急増しているが、“30~40歳未満”から“60歳以上”にかけて同割合の伸びはほとんど無く、30歳代以上では年齢層による大きな差は認められない。

【図-45】 専門学会の参加経験の有無(設置主体別)



設置主体別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“社保関係団体”“個人”“その他の法人”でやや低くなっているが、他の設置主体はいずれも4割を超えている。

また、望まれる専門学会の内容について調査したところ、次のようなコメントがみられた。

【表-11】 望まれる専門学会の内容（自由意見）

①看護技術に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> ○『ボーダーへの対応や有効な治療法』 ○『老年期看護』 ○『アニマルセラピー』 ○『急性期における患者への対応とそれを取り巻くチーム医療の在り方』 ○『急性期の看護』 ○『精神科で活用できるクリティカルパス』 ○『SST』 ○『身体的ケア技術』 ○『精神科訪問看護』 ○『精神科看護への心理学の応用』 ○『アディクション看護』 ○『精神科地域ケア』 ○『精神科救急』 ○『精神科デイケアにおける看護師の役割』 ○『身体合併症を持っている方への看護』
②法律・制度に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> ○『触法』 ○『障害者自立支援法施行後の精神保健福祉』 ○『自立支援法に伴う長期入院患者と家族への対応』
③病気に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> ○『認知症』 ○『思春期』 ○『アルコール』 ○『神経症圏』 ○『痴呆』 ○『鬱』 ○『水中毒』 ○『PTSD』 ○『トラウマ』 ○『児童・青年期学と摂食障害』 ○『境界性人格障害』
④社会復帰に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> ○『長期入院患者の退院・社会復帰』

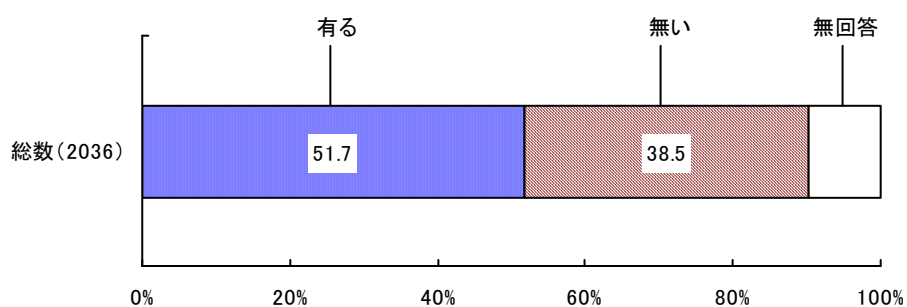
	<input type="radio"/> 『認知症患者の退院に向けた取り組み』 <input type="radio"/> 『社会復帰支援』
⑤薬剤に関わる内容	<input type="radio"/> 『向精神薬』 <input type="radio"/> 『薬物療法』 <input type="radio"/> 『副作用』 <input type="radio"/> 『肥満と薬物の関係』
⑥その他	<input type="radio"/> 『最新情報』 <input type="radio"/> 『誤嚥や転倒事故時の対処方法』 <input type="radio"/> 『看護者のストレスや危険防止』 <input type="radio"/> 『医療事故や過誤』 <input type="radio"/> 『自傷行為や暴力行為への対処方法』 <input type="radio"/> 『精神科リハビリテーション』

※自由意見の一部を掲載

③協会主催の研修会

【図-46】

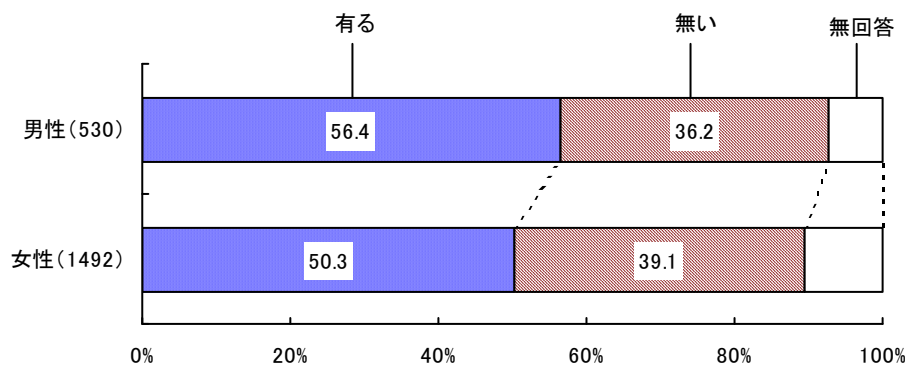
協会主催の研修会の参加経験の有無



協会主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は51.7% (55.6%) であり、半数以上の会員において参加経験があるとみられる。

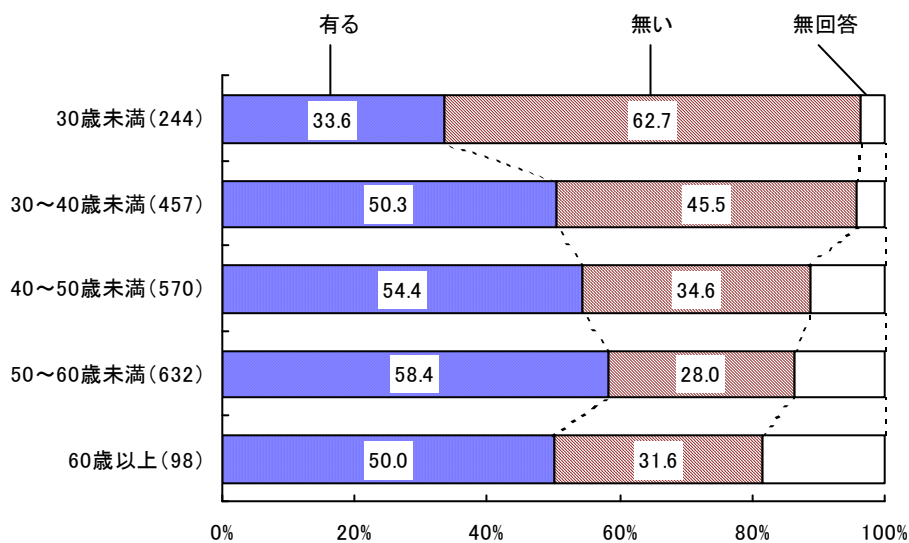
2002年度の調査と比較すると、「有る」と回答した会員の割合がわずかながら低下している。

【図-47】 協会主催の研修会の参加経験の有無(性別)



性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を6ポイント程度上回っている。

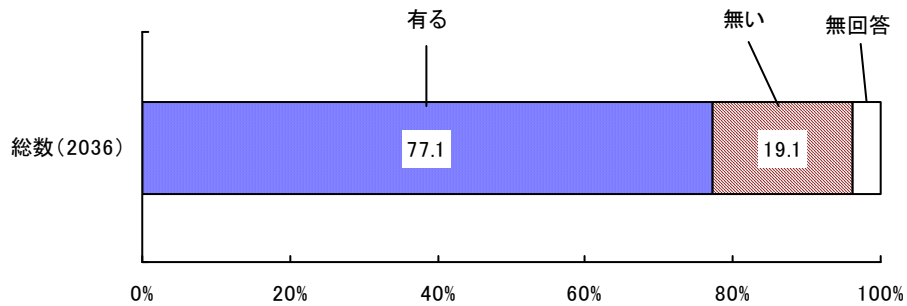
【図-48】 協会主催の研修会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、参加経験のある会員の割合が高くなる傾向がみられ、“50~60歳未満”ではほぼ6割を占めている。

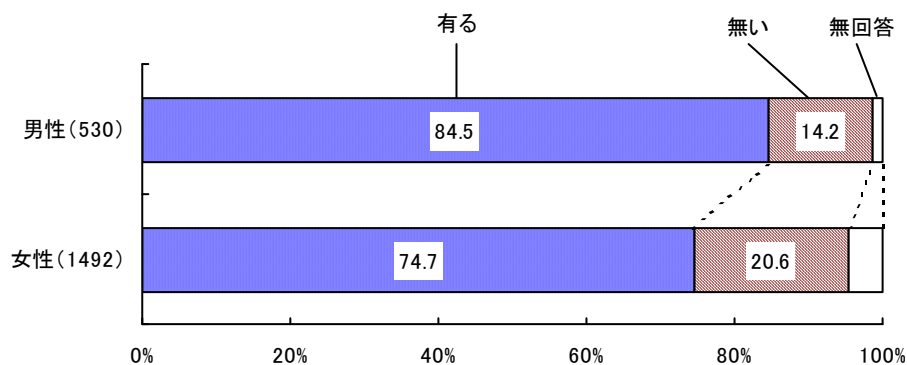
④支部主催の研修会

【図-49】 支部主催の研修会の参加経験の有無



支部主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は77.1% (76.9%) であり、大半の会員において参加経験があるとみられる。

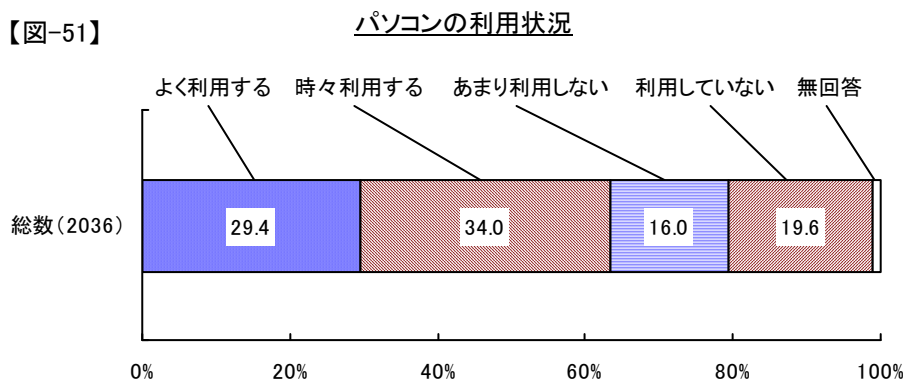
【図-50】 支部主催の研修会の参加経験の有無(性別)



これを性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を10ポイント近く上回っている。

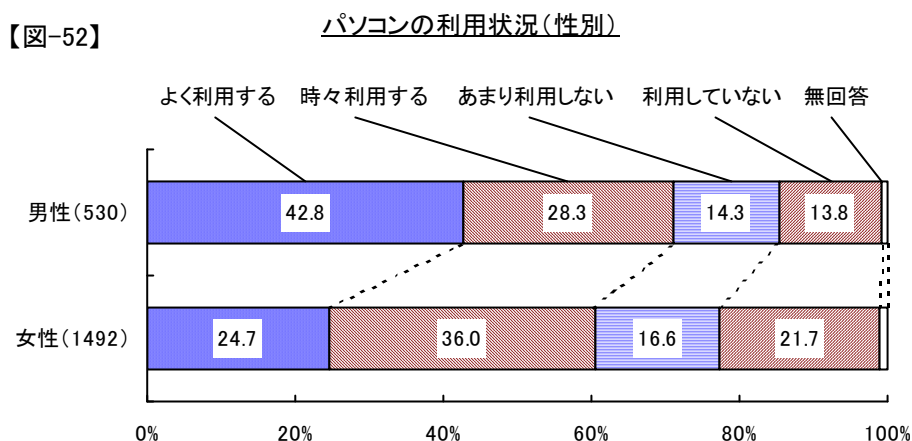
3) 協会ホームページ

①パソコンの利用状況



協会ホームページの閲覧状況について分析するに当たり、まず、パソコンの利用状況について調査したところ、パソコンを利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は63.4%（43.9%）である。

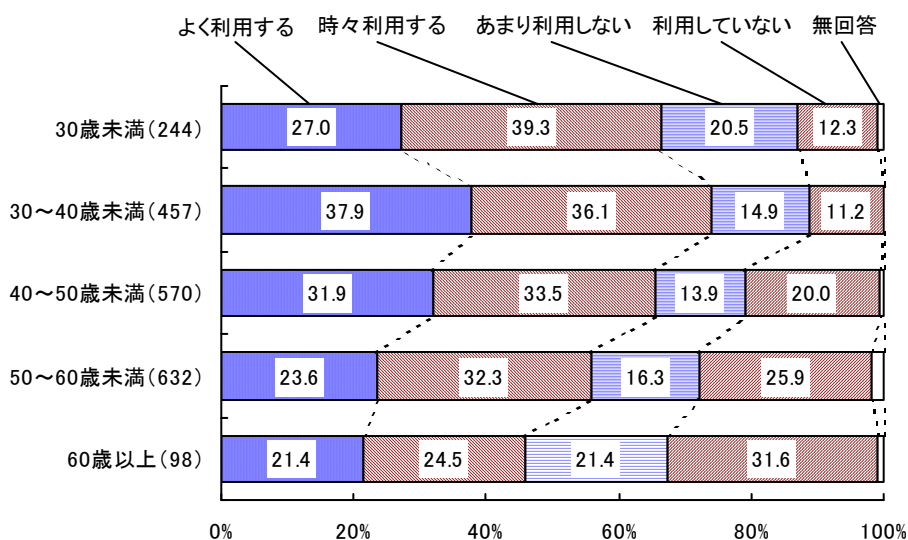
2002年度の調査と比較すると、パソコンを利用している会員の割合が20ポイント程度高くなっており、この4年間で急速にパソコンの利用者が増えている状況が窺われる。



性別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、“男性”が“女性”を10ポイント程度上回っている。

【図-53】

パソコンの利用状況(年齢別)



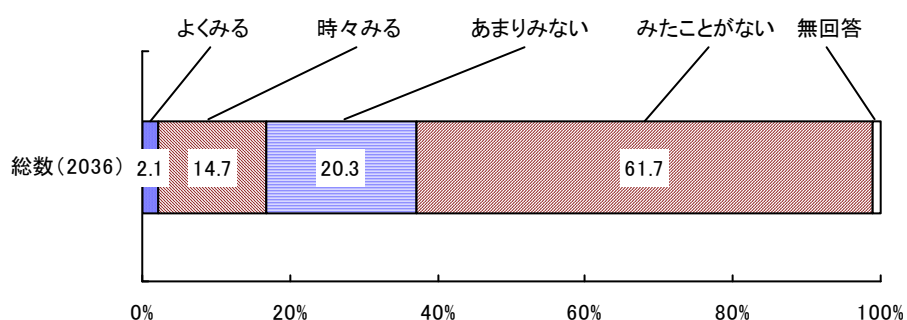
年齢別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、年齢層が高くなるほど低下する傾向がみられ、パソコンは若年層を中心に利用されている状況が窺われる。

ただ、“60歳以上”でも利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合が5割近くを占めており（2002年度の調査では3割に満たない）、高齢層でもパソコンの利用者が増えている状況が窺われる。

②協会ホームページの閲覧状況

【図-54】

ホームページの閲覧状況

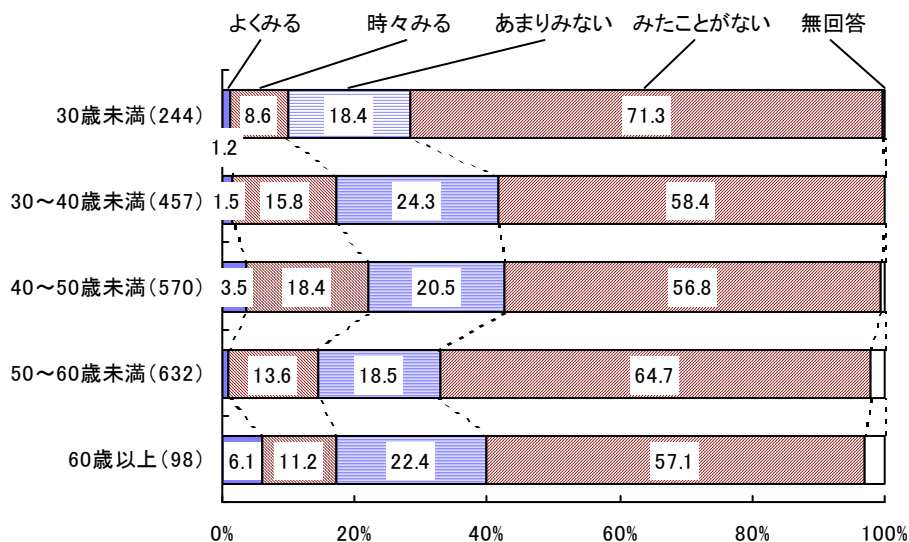


協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は16.8%（11.2%）である。

2002年度の調査と比較すると、ホームページを閲覧している会員の割合が5ポイント

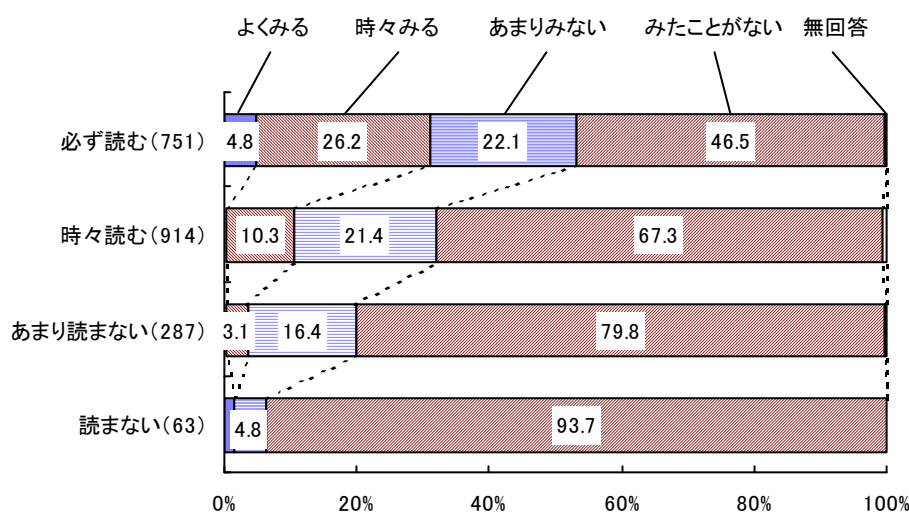
ト以上増えている。

【図-55】 ホームページの閲覧状況(年齢別)



年齢別にみると、「40～50歳未満」で閲覧している会員の割合が最も高くなっている。また、「60歳以上」でも閲覧している会員の割合が17.3%に及んでいる他、「よくみる」会員の割合も6.1%で最も高く、世代による閲覧状況の差が少なくなっている状況が窺われる。

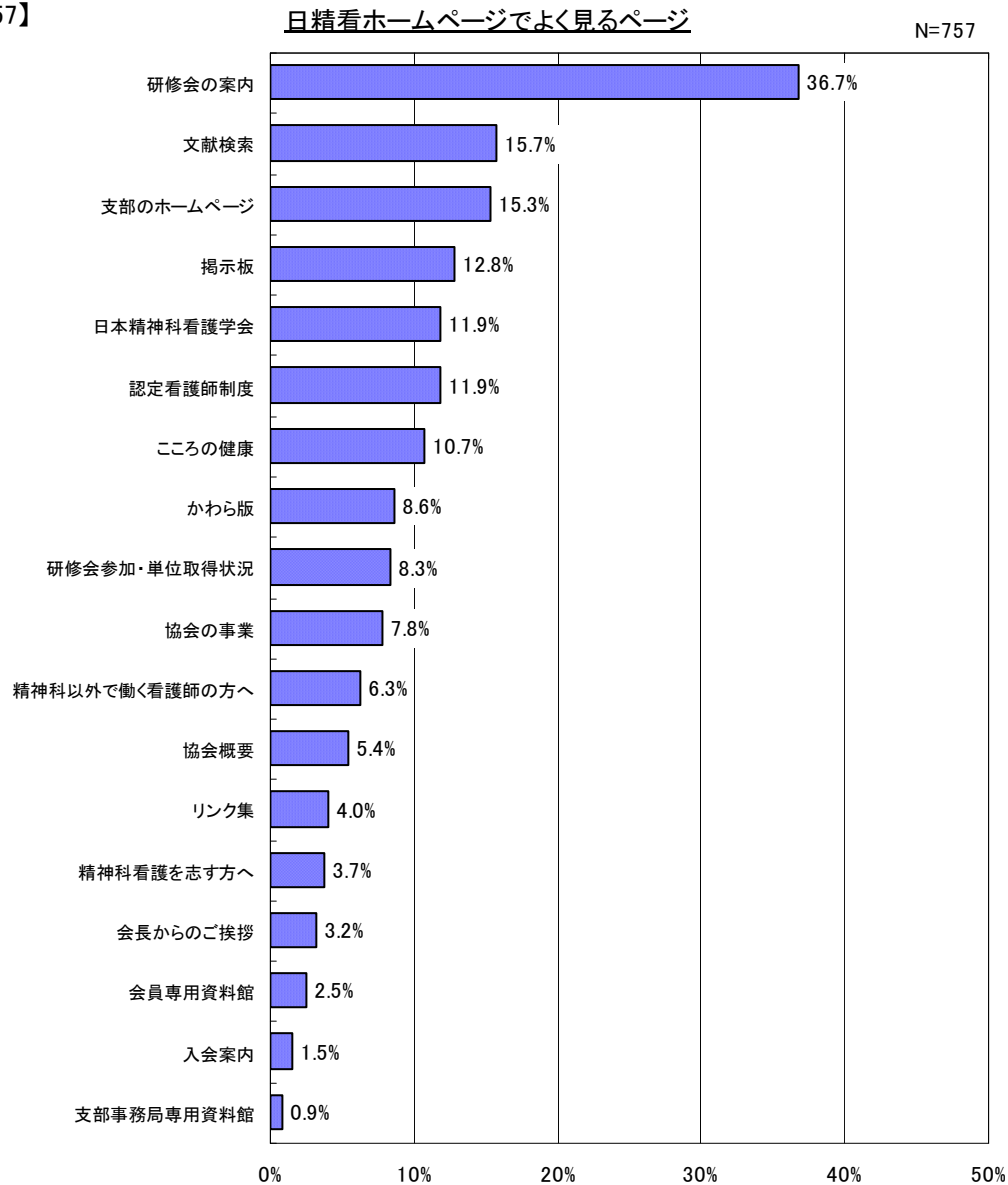
【図-56】 ホームページの閲覧状況(日精看ニュース閲読状況別)



日精看ニュースの閲読状況別にみると、日精看ニュースをよく読んでいる人ほど協会ホームページを閲覧している会員の割合が高くなっている。

日精看ニュースを「必ず読む」会員では、協会ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合が3割を超えている。

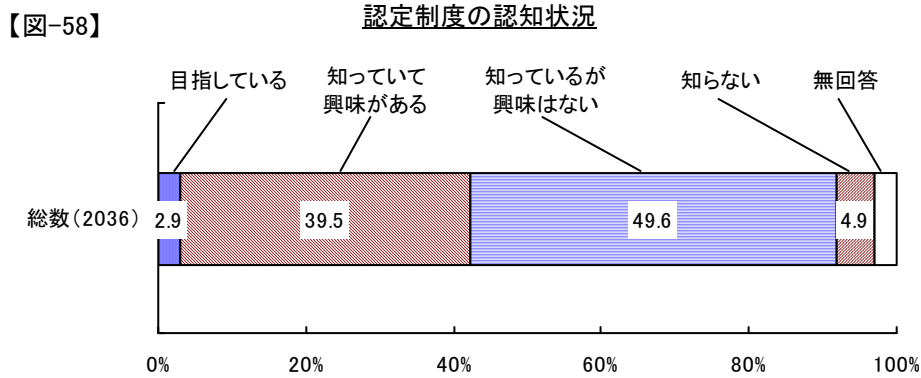
【図-57】



続いて、日精看のホームページを閲覧している757名の会員に対して、よく見るページについて調査したところ、「研修会の案内」を挙げた会員の割合が36.7%（2004年度の調査では37.9%）で最も高く、これに「文献検索」が15.7%、「支部のホームページ」が15.3%（2004年度の調査では18.1%）、「掲示板」が12.8%、「日本精神科看護学会」が11.9%（2004年度の調査では13.8%）、「認定看護師制度」が11.9%、

「こころの健康」が10.7%（2004年度の調査では10.7%）・・・と続いている。

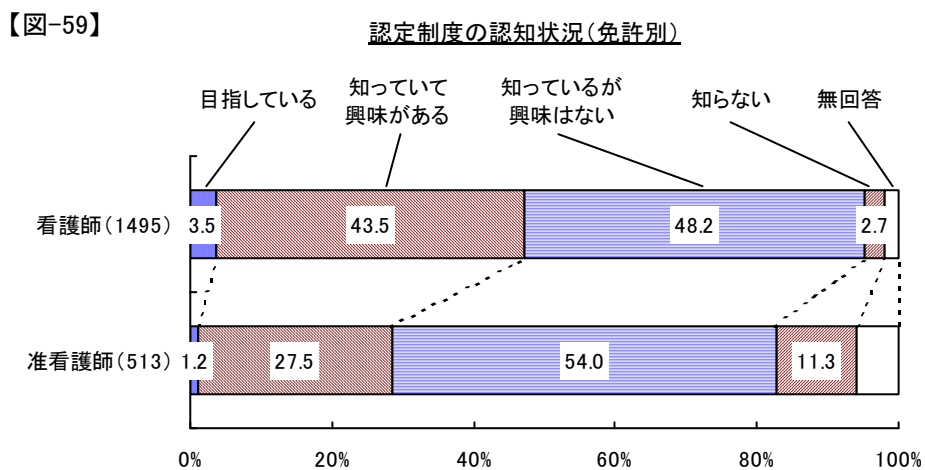
4) 認定制度の認知状況



認定制度の認知状況について調査したところ、認知している（「目指している」+「知っていて興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は92.0%（82.2%）を占めており、ほとんどの会員が認定制度を認知しているとみられる。

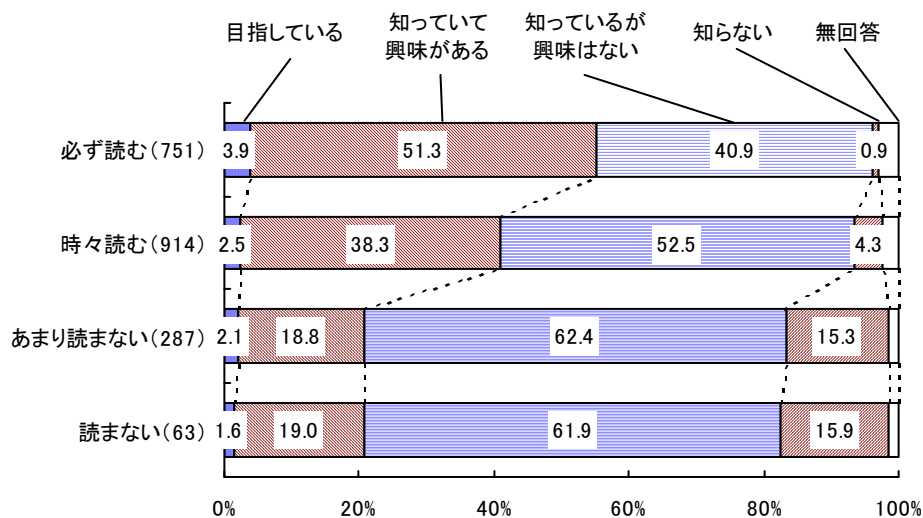
2002年度の調査と比較すると、認知している会員の割合が10ポイント近く高くなっている。

また、認定制度に興味を持っている会員も39.5%（40.5%）を占めている。



働いている免許の種類別にみると、認知している会員、興味を持っている会員の割合とも“看護師”が“准看護師”を上回っている。

【図-60】 認定制度の認知状況(日精看ニュース閲読状況別)



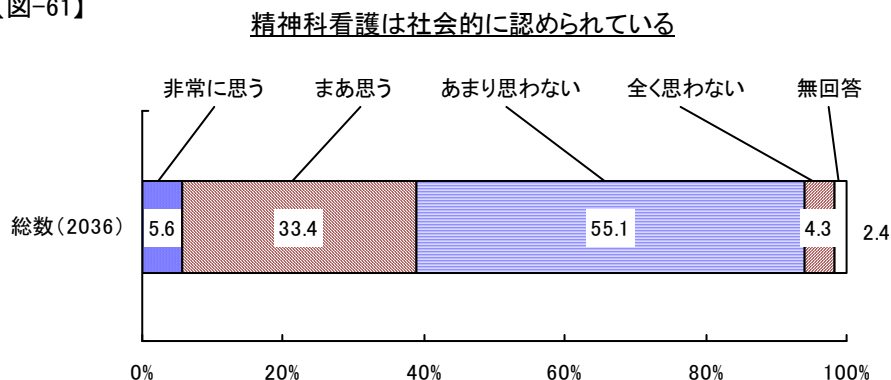
日精看ニュースの閲読状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、日精看ニュースをよく読んでいる会員ほど高くなっている。

日精看ニュースの閲読が、認定制度の認知や興味に影響を与えていると推察される。

§ 5. 精神科看護に対する考えについて

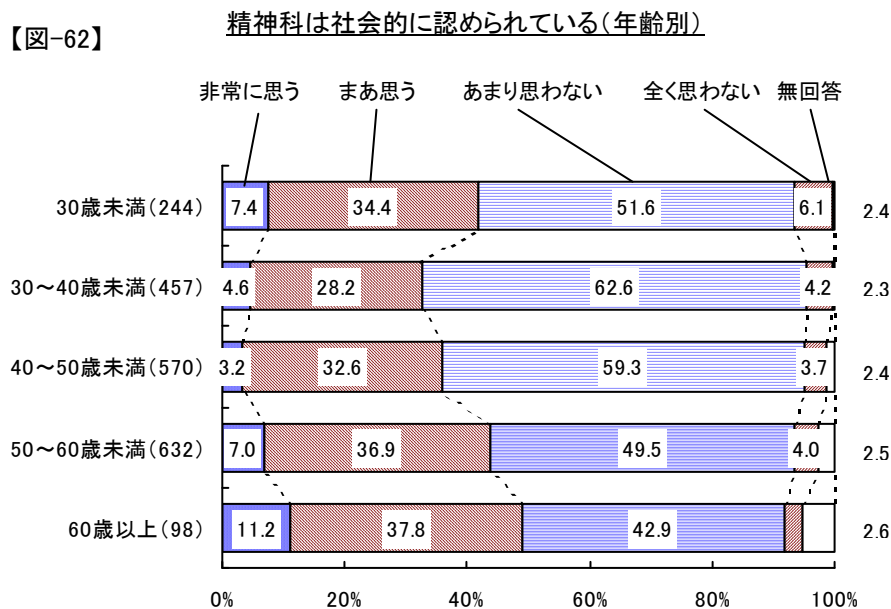
精神科看護は社会的に認められていると思う

【図-61】



「精神科看護は社会的に認められていると思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「あまり思わない」との回答が55.1%（56.4%）で半数以上を占めている。「全く思わない」を合わせれば6割近くを占め、大半の会員が同考えに否定的な意識を持っていると推察される。

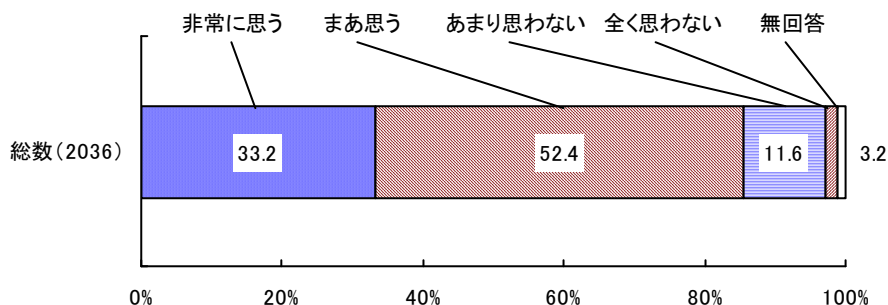
【図-62】



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに否定的な意識を持った会員の割合が低下し、肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。特に“60歳以上”では、肯定的な意識を持った会員の割合が、ほぼ半数を占めている。

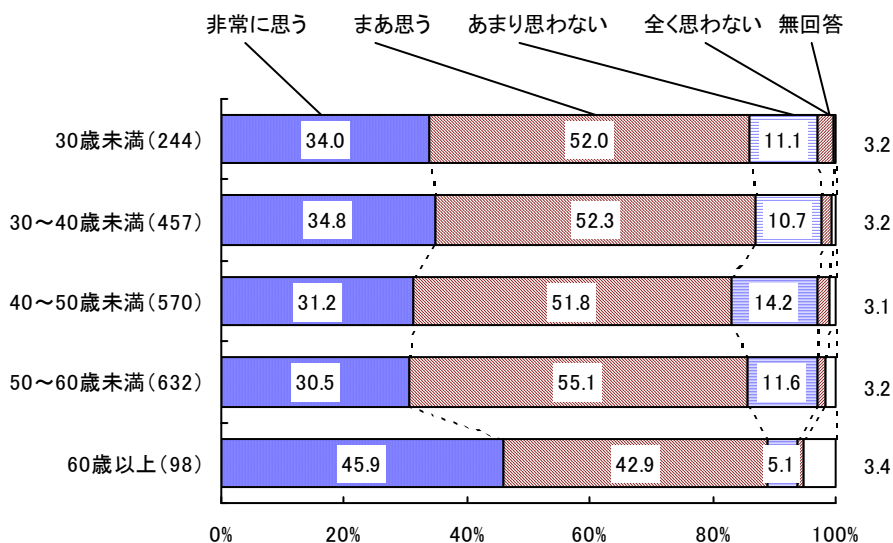
精神科看護が好きである

【図-63】 精神科看護が好きである



「精神科看護が好きである」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあ思う」との回答が52.4%（54.3%）で半数以上を占めている。「非常に思う」を合わせれば8割を大きく上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

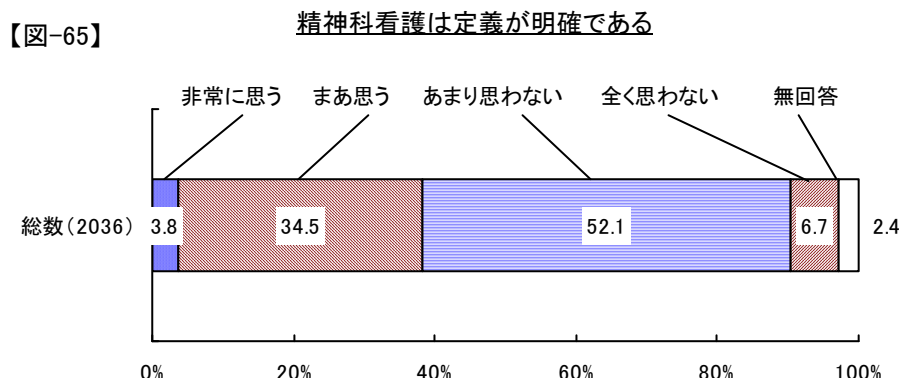
【図-64】 精神科看護が好きである(年齢別)



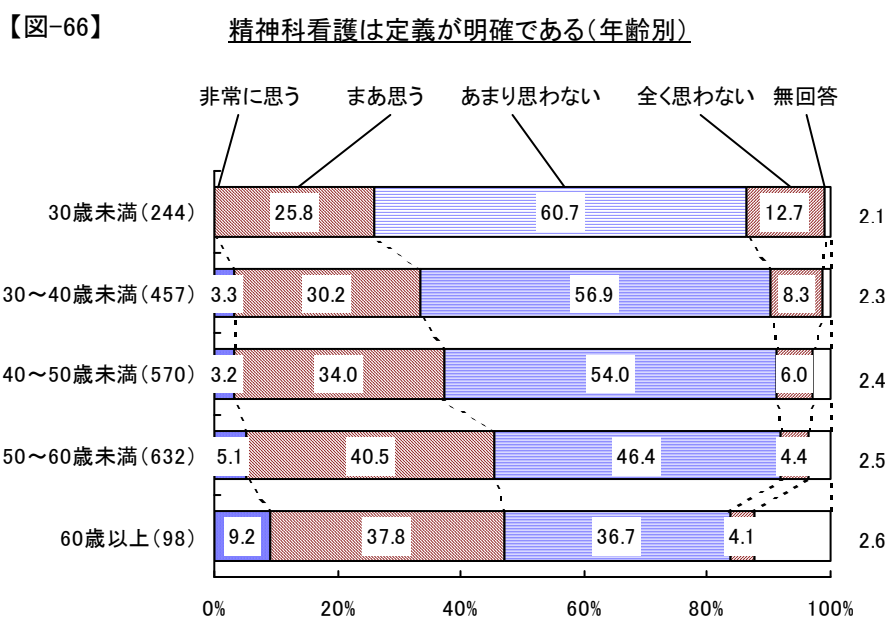
年齢別にみると、いずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割を超えており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

また、“60歳以上”では、「非常に思う」が45.9%（48.3%）を占めており、高齢層では特に「精神科看護が好きである」との意識を強く持った会員の割合が高いといえる。

精神科看護は定義が明確であると思う



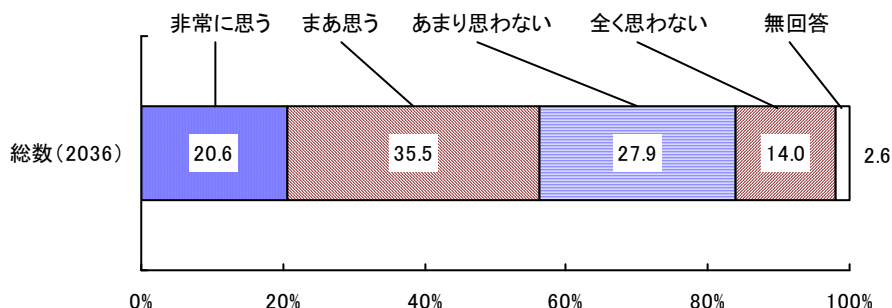
「精神科看護は定義が明確である」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「あまり思わない」との回答が52.1%（2004年度の調査では50.3%）で半数以上を占めている。「全く思わない」を合わせれば58.8%（2004年度の調査では56.7%）を占め、半数以上の会員が同考えに否定的な意識を持っていると考えられる。



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。特に“60歳以上”では、肯定的な意識を持った会員の割合が、否定的な意識を持った会員のそれを上回っている。

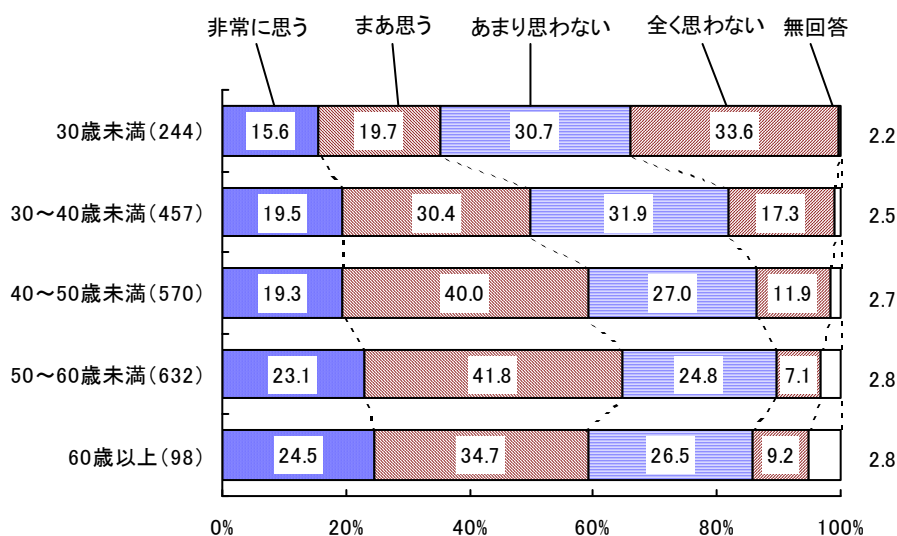
精神科看護では身体的ケア技術の習得に不安がない

【図-67】 精神科看護では身体的ケア技術の習得に不安がない



「精神科看護では身体的ケア技術の習得に不安がないと思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあ思う」との回答した会員の割合が35.5%（2004年度の調査では36.6%）で最も高く、これに「非常に思う」を合わせれば6割近くを占め、大半の会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

【図-68】 精神科看護では身体的ケア技術の習得に不安がない(年齢別)

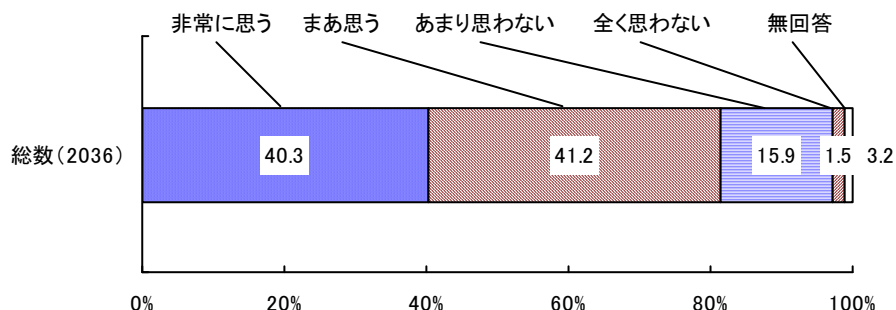


年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。

50歳代以上では、半数を大きく超える会員が同考えに肯定的な意識を持っており、特に高齢層において、身体的ケアを習得できな点に不安を持っている人が多いと推察される。

精神科看護は他の分野に比べて専門性が高いと思う

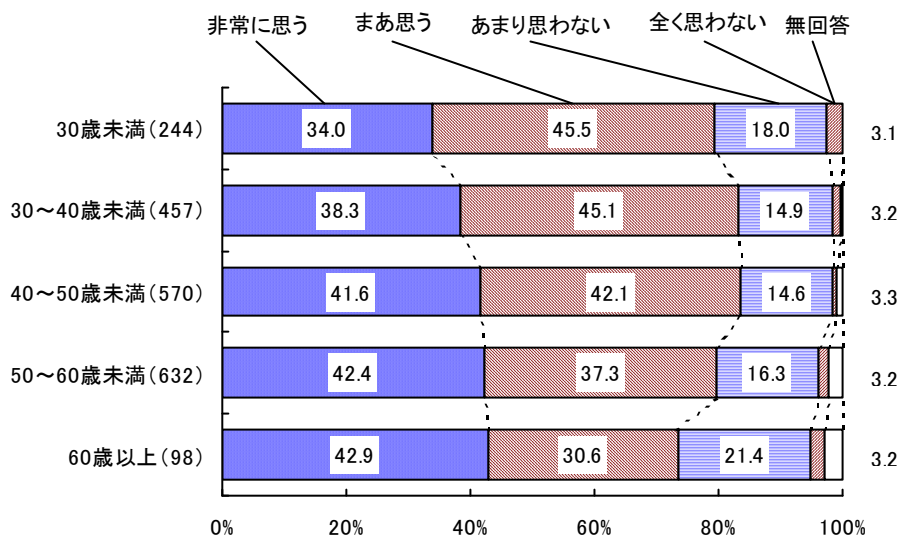
【図-69】 精神科看護は専門性が高い



「精神科看護は他の分野に比べて専門性が高いと思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「非常に思う」との回答が40.3%（45.8%）を占めており、同考えに強く同意している会員の割合が高いといえる。

また、「まあ思う」を合わせれば8割を上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

【図-70】 精神科看護は専門性が高い(年齢別)



年齢別にみると、“60歳以上”を除くいずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割前後を占めており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

調 査 票

日本精神科看護技術協会

会員実態調査アンケート

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、当協会の事業として標題のアンケート調査を実施することになりました。このアンケートは、会員の皆様の勤務形態、協会に対するご意見・ご要望、そして精神科看護に対するお考え等を伺うものです。

当該調査の結果を報告書としてまとめ、皆様方の労働環境の更なる改善に加えて、今後の協会の事業や活動の企画、そして精神科看護の更なる発展に活用していきたいと考えております。

ご多忙のところ、誠に恐縮ですが、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

社団法人 日本精神科看護技術協会

〔ご記入にあたって〕

1. 回収後はコンピューターによる集計・分析作業に用いるだけですので、記入者の情報は守られます。また、お答えになりたくないことは、無理に答えなくてもかまいません。
2. ご記入は、黒色または青色のボールペンなどをご使用ください。
3. ご回答は、あてはまる答えの番号を○印でかこむ場合がほとんどですが、数字やことばを具体的に記入していただく場合もあります。
4. お答えが「その他」の場合は、その番号に○印をつけて（ ）に具体的内容をお書きください。
5. ご記入いただいたアンケート票は、10月20日（金）までに同封の返信用封筒でご返送下さい。

本アンケートについてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

社団法人 日本精神科看護技術協会 電話 03 3667 - 8661
FAX 03 - 3667 - 8662

（担当：龍野^{たつの}）

特に記述がない場合、2006年10月1日現在の状況をお答え下さい。

1. あなた自身のことについて伺います。

問1 あなたの性別と年齢をお聞かせ下さい。

性別	1. 男 2. 女	年齢			歳
----	-----------	----	--	--	---

問2 配偶者と子供の有無をお聞かせ下さい。

配偶者	1. 有 2. 無	子供	1. 有 2. 無
-----	-----------	----	-----------

問3 あなたが看護の専門教育を受けた学校（最終学歴）は以下のどれですか。（○印はひとつ）

1. 准看護師養成所・高校衛生看護学科	2. 看護高校専攻科
3. 看護師養成所2年課程・短期大学2年課程	4. 看護師養成所3年課程
5. 短期大学3年課程	6. 保健師・助産婦専門学校
7. 看護系大学	8. 大学院
9. その他（	）

問4 あなたは、下記の中でどの免許を持っていますか。（○印はいくつでも）

1. 看護師	2. 准看護師	3. 保健師
4. 助産師	5. 介護支援専門員	6. 精神保健福祉士

問5 あなたは、現在、主にどの免許で働いていますか。（○印はひとつ）

1. 看護師	2. 准看護師	3. 保健師
4. 助産師	5. 介護支援専門員	6. 精神保健福祉士

問6 問5で「准看護師」と答えた方にお聞きします。看護師学校養成所2年課程（通信制）への進学を希望しますか。また、希望する場合は、進学の予定についてもお聞かせ下さい。

1. 希望する（ a. 進学中 b. 進学予定 c. 進学の予定はない）	2. 希望しない
--------------------------------------	----------

問7 看護師・准看護師・保健師・助産師の免許を取得してから、下記の施設での勤務経験（パートは含みません）がありますか。（○印はそれぞれひとつ）

	勤務経験	
1) 医療施設	1. 有	2. 無
2) 社会復帰施設	1. 有	2. 無
3) 教育機関（学校等）	1. 有	2. 無
4) 行政機関	1. 有	2. 無

問8 現在勤務している施設での勤務年数を記入して下さい。

		年	(ヶ月は切り上げて記入して下さい。例：3ヶ月→1年)
--	--	---	----------------------------

問9 あなたの勤務状況についてお聞かせ下さい。(○印はそれぞれひとつ)

採用形態	1. 正職員	2. 臨時職員 (勤務時間は正職員と同じ)
職 位	3. パートタイム・アルバイト	4. 派遣
	5. その他	
	1. 管理職	2. 非管理職 (一般職)

問10 あなたは、これまで転職経験 (異動や転勤は含まない) がありますか。あれば、その回数もお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

転職経験	1. 有	2. 無		回 数		回
------	------	------	--	-----	--	---

2. あなたの勤務先について伺います。

問11 あなたは、現在、どちらに勤務していますか。主たる勤務先をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 総合病院	2. 精神科病院	3. 診療所
4. 訪問看護ステーション	5. 社会復帰施設	
6. 都道府県・市町村 (行政職)	7. 企業	
8. 教育・研究機関	9. その他 ()

SQ. 病院 (診療所は含みません) に勤務している方にお尋ねします。現在、勤務している診療科をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 精神科	2. 神経科	3. 神経内科	4. 心療内科
5. 内科	6. 外科	7. その他 ()

問12 あなたの勤務先の設置主体をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 国 (厚生労働省・文部科学省・労働福祉事業団など)	
2. 公的機関 (都道府県・市区町村・日赤・済生会・北海道社会事業協会・厚生連・国民健康保険団体連合会など)	
3. 独立行政法人	
4. 社会保険関係団体 (全国社会保険協会連合会・厚生年金事業振興団・船員保険会・健康保険組合及びその他の連合会・共済組合及びその他の連合会・国民健康保険組合など)	
5. 公益法人 (社会福祉法人, 財団法人, 社団法人)	6. 医療法人
7. 学校法人	8. 会社
9. その他の法人	10. 個人

問 13 あなたの勤務先がある都道府県をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 北海道	2. 青森県	3. 岩手県	4. 秋田県	5. 山形県	6. 宮城県
7. 福島県	8. 茨城県	9. 栃木県	10. 群馬県	11. 埼玉県	12. 千葉県
13. 東京都	14. 神奈川県	15. 新潟県	16. 長野県	17. 山梨県	18. 富山県
19. 石川県	20. 岐阜県	21. 静岡県	22. 愛知県	23. 三重県	24. 滋賀県
25. 京都府	26. 大阪府	27. 兵庫県	28. 奈良県	29. 和歌山県	30. 福井県
31. 鳥取県	32. 島根県	33. 岡山県	34. 広島県	35. 山口県	36. 徳島県
37. 香川県	38. 愛媛県	39. 高知県	40. 福岡県	41. 佐賀県	42. 長崎県
43. 熊本県	44. 大分県	45. 宮崎県	46. 鹿児島県	47. 沖縄県	

問 14 あなたの勤務先の週休形態についてお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 週休2日	2. 4週6休	3. 4週7休	4. その他 ()
---------	---------	---------	------------

問 15 あなたの勤務先の勤務体制についてお聞かせください。(○印はひとつ)

1. 二交代制	2. 三交代制	3. 日勤のみ
---------	---------	---------

問 16 あなたが現在の勤務先を選んだ最も大きな理由をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 勤務先の(看護に対する)理念	2. 勤務先の規模・安定性
3. アメニティ	4. 通勤の利便性
5. 給与	6. 福利厚生
7. 進学に対する配慮	8. 労働時間・労働量・夜勤体制
9. 研修の充実	10. 出産・育児・介護に対する配慮
11. 家族・知人の勧め	
12. その他(具体的に ;)	
13. 特にない	

問 17 あなたが現在の勤務先で最も満足している項目をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 勤務先の(看護に対する)理念	2. 勤務先の規模・安定性
3. アメニティ	4. 通勤の利便性
5. 給与	6. 福利厚生
7. 人間関係	8. 業務内容
9. 昇格規定	10. 進学に対する配慮
11. 研修の充実	12. 労働時間・労働量・夜勤体制
13. 出産・育児・介護に対する配慮	
14. その他(具体的に ;)	
15. 特にない	

問 18 あなたが現在の勤務先で最も不満に感じている項目をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 通勤の利便性	2. 給与	3. 福利厚生
4. 人間関係	5. 業務内容	6. 昇格規定
7. 進学に対する配慮	8. 労働時間・労働量・夜勤体制	
9. 研修の充実	10. 出産・育児・介護に対する配慮	
11. その他 (具体的に; _____)		
12. 特にない		

3. 会員のことについて伺います。

問 19 はじめて当協会の会員になってから、今年で何年目ですか。

		年
--	--	---

(ヶ月は切り上げて記入して下さい。例：3ヶ月→1年)

※休会の期間があれば、それも含めて下さい。

問 20 あなたは、当協会の会員を途中で辞めたことがありますか。(○印はひとつ)

あれば、その期間もお聞かせ下さい。

辞めた経験	1. 有	2. 無	期 間		年
-------	------	------	-----	--	---

(ヶ月は切り上げて記入して下さい。例：3ヶ月→1年)

SQ. 会員を辞めた経験のある方にお尋ねします。その理由をお聞かせ下さい。(○印はひとつ)

1. 退職	2. 精神科以外の科への異動	3. 産休・育休などの長期休暇
4. その他 (_____)		

問 21 あなたが会員になった動機を全てお聞かせ下さい。(○印はいくつでも)

1. 精神科の職能団体だから	2. 学会や研修会に参加するため
3. 日精看ニュースを読みたいから	4. 認定看護師を目指しているから
5. 勧められたから	
6. その他(具体的に; _____)	

SQ. ○印を付けた項目の中で、最も大きな動機を一つだけお聞かせ下さい。(番号を記入)

最も大きな動機	
---------	--

問 22 あなたは、会費を自己負担していますか。(○印はひとつ)

1. 全額自己負担している	2. 一部を自己負担している(一部勤務先負担)
3. 全額勤務先が負担してくれている	

問 23 下記の中で、あなたが所属している団体があれば全てお聞かせ下さい。(○印はいくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-------------|
| 1. 社団法人日本看護協会 | 2. 日本精神保健看護学会 | |
| 3. 日本精神保健福祉士協会 | 4. SST普及協会 | 5. 日本看護科学学会 |
| 6. 上記以外(具体的に; | |) |

4. 協会のことについて伺います。

問 24 あなたは、パソコンを利用しますか。(○印はひとつ)

- | | | | |
|-----------|-----------|-------------|------------|
| 1. よく利用する | 2. 時々利用する | 3. あまり利用しない | 4. 利用していない |
|-----------|-----------|-------------|------------|

問 25 あなたは、協会のホームページをみたことがありますか。(○印はひとつ)

- | | | | |
|---------|---------|-----------|------------|
| 1. よくみる | 2. 時々みる | 3. あまりみない | 4. みたことがない |
|---------|---------|-----------|------------|

SQ. みたことがある方にお尋ねします。どのページをよくご覧になりますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------------|---------------|
| 1. 会長からのご挨拶 | 2. 協会概要 | 3. 協会の事業 |
| 4. 入会案内 | 5. 支部のホームページ | 6. かわら版 |
| 7. こころの健康 | 8. 精神科看護を志す方へ(学生向け) | |
| 9. 精神科以外で働く看護師の方へ | | 10. 日本精神科看護学会 |
| 11. 研修会の案内・申込 | 12. 認定看護師制度 | 13. 文献検索 |
| 14. 掲示板 | 15. 研修会参加・単位取得状況 | |
| 16. 会員専用資料館 | 17. 支部事務局専用資料館 | 18. リンク集 |

問 26 あなたは、『日精看ニュース』を読んでいますか。(○印はひとつ)

- | | | | |
|---------|---------|------------|---------|
| 1. 必ず読む | 2. 時々読む | 3. あまり読まない | 4. 読まない |
|---------|---------|------------|---------|

SQ. 読んでいる方にお尋ねします。どの記事をよくご覧になりますか?(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. トップ記事 | 2. 主張 | 3. 事務局だより |
| 4. トップナース | 5. チーム医療 | 6. ナースステーション |
| 7. 診察室 | 8. 私の病院 | 9. 情報ネットワーク |
| 10. BOOKS | 11. ニコニコ研修 | |
| 12. その他(| |) |

問 27 あなたは、日精看主催の学会に参加したことがありますか。(○印はそれぞれひとつ)

■全国学会

1. ある	2. ない
-------	-------

■専門学会

1. ある	2. ない
-------	-------

問 28 専門学会の内容について、望まれる内容がありましたら、下記にご記入下さい。

--

問 29 あなたは、下記の研修会に参加したことがありますか。

1) 協会主催の研修会	1. はい	2. いいえ
2) 支部主催の研修会	1. はい	2. いいえ

問 30 あなたは、認定看護師制度を知っていますか。(○印はひとつ)

1. 目指している	2. 知っていて興味がある
3. 知っているが興味はない	4. 知らない

5. 精神科看護について伺います。

問 31 精神科看護であなたが日頃感じていることについてお聞きします。それぞれについて該当するところの数字に○印をつけて下さい。(○印はそれぞれひとつ)

	非常に思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
1)精神科看護は、社会的に認められていると思う	1	2	3	4
2)私は精神科看護が好きである	1	2	3	4
3)精神科看護は、定義が明確である	1	2	3	4
4)精神科看護では、身体的ケア技術を習得できにくいと不安に感じることはない	1	2	3	4
5)精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高いと思う	1	2	3	4

最後に、日精看に対するあなたのご意見（自由意見）をお聞かせ下さい。

以上でアンケートは終わりです。長時間ご協力ありがとうございました。

☆記入が済みましたら……

- ①記入もれや記入ミスがないかどうか、お手数でももう一度ご確認下さい。
- ②名前や住所を書かずに、アンケート用紙を返信用封筒に入れて下さい。
- ③切手を貼らずに 2006年10月20日（金）までに投函して下さい。

2006 年度 日本精神科看護技術協会会員基礎調査報告書

発行日 2007年3月

発行 社団法人 日本精神科看護技術協会

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 2-3-2

TEL03-3667-8661 FAX03-3667-8662

集計・分析 有限会社 ヘルスケア総合研究所

〒181-0005 東京都三鷹市中原 4-25-14

TEL0422-43-3557 FAX0422-43-3557

本書の一部または全文を著作権法の定める範囲を超え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイル化することを禁じます。